

リフレクションカード 2016年度前期

|    |      |
|----|------|
| 学科 | 栄養学科 |
| 氏名 | 銀光   |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 公衆衛生学 | 2    | 前期         | 必修      | はい       | 105       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①公衆衛生学は必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」97.9%、「資格取得に必要である」15.6%で、「関心のある内容である」4.2%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|--|--|------------|------------|------------|----------|------------|
|  |  | 達成された      | 達成された      | 達成された      | やや達成された  | やや達成された    |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>①本試験の成績の平均値は72.6(±10.1)点であり、再試験後不合格者は3名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は2点あがり、次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性<br/>本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性<br/>成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、態度に関しやや達成された。しかしながら、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.4で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.2であった。昨年の評価より0.2点上昇した。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.3で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.2で、昨年より0.1点上昇した。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。

学生の意見として、授業を進めるスピードが速く、聞き取りにくいところがあったという意見があり、次年度からは改善して行きたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。

授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。

講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。

|    |      |
|----|------|
| 学科 | 栄養学科 |
| 氏名 | 銀光   |

1. 基本情報

| 科目名    | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|--------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 健康管理概論 | 3    | 前期         | 必修      | いいえ      | 102       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①3年生になって統計学、栄養疫学と公衆衛生学の学習は終了したので、健康管理概論の講義は今までの勉強のまとめとして学習するよう指導し、管理栄養士国家資格取得するための意識を高め、できるだけ具体的な演習問題を解くようにしている。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。具体ときにはスライドの見やすさ、講義内容の論理性などについて修正した。</p> <p>④受講動機を見ると、「必須科目である97.9%」、「資格取得に必要である」26%で、「関心のある内容である」3.1%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やしたい。</p> <p>⑤授業内容がはっきり聞き取れるよう言葉はゆっくり話すようこころかけた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |   |            |            |            |          |            |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | 達成された   | 達成された      | 達成された      | やや達成された    | やや達成された  |            |
| (2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  | <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>   |            |            |            |          |            |
|   | <p>①本試験の成績の平均値は78(±7.4)点であり、不合格者はいなかった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は11点上昇した。次年度は理想レベル80点を目標し、成績を上げる工夫が必要である。</p> <p>③学生による授業評価においては、「一回30分程度の予習・復習をしたか」という質問に対し、0回と回答した者は多かった。次年度は予習・復習の重要性を初回の授業のオリエンテーションで説明する必要があると認識した。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性<br/>本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性<br/>成績評価から知識・理解、思考判断に関する達成度が比較的良好であった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.4で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.2であった。昨年より0.2点上昇した。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.3で、授業の内容はよかったが、予習・復習の時間が想定より少なかったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、予習・復習をしっかりと、授業に参加するよう促していきたい。

学生の意見として、演習問題はすべてを解説してほしいという要望があった。次年度からは学生の要望を尊重し、取り入れていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、意欲関心の面では課題を残した。今後、予習・復習の重要性をしっかりと説明し、学生の成績の向上を目指していきたい。

授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業中、質疑応答の時間を設けたことで学生の思考判断を高めることができた。しかし、意欲関心、態度についてはさらなる工夫が必要である。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を取り、復習課題を提示して、学生の意欲関心をあげる努力をしていきたい。

演習問題の説明に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善して行きたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 相良 かおる |

1. 基本情報

| 科目名     | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|---------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 健康情報処理論 | 2    | 前期         | 必修      | いいえ      | 101       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|      | ○         | ○         | ×         | ×       | ×         |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>思考することを重視し、90分の時間内で完結できるような内容にし、教えない授業を心がけている。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|  |   |           |           |           |         |           |
|--|---|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 | 全体を通して  | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|  | 達成された   | 達成された     | 達成された     |           |         |           |
| (2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  | <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> <p>最終的な成績は、AクラスはA: 7.7%、B: 30.8%、C: 40.4%、D: 11.5%、E: 3.8%、BクラスはA: 6.1%、B: 36.7%、C: 36.7%、D: 10.2%、E: 6.1%であった。</p> <p>授業評価の折に、以下の行動目標について、出来る、何とか出来る、出来ないの3段階で自己評価して貰ったところ、出来ないと解答した割合は、(1) 0%、(2) 9%、(3) 15%、(4) 11%であったことから、おおむね達成されたと考えている。</p> <p>(1) 適切な健康情報を検索・収集できる。<br/>(2) 収集した健康情報の科学的根拠の有無について判断できる。<br/>(3) 収集した健康情報を適正に処理し、問題解決、意思決定に活用できる。<br/>(4) 健康情報を解釈する上で必要な基本的な統計処理を理解できる。</p> <p>なお、出来ると回答した割合は、(1) 22%、(2) 10%、(3) 5%、(4) 4%であった。</p> |           |           |           |         |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性<br/>本科目は「専門基礎分野」であるが、幅広い教養を身に付けるという点においては、内容的に妥当であると考える一方で、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にするという点において、工夫が必要だと考えている。</p> <p>② DP、行動目標からみでの内容的妥当性<br/>「知識・理解」においては、成績より知識・理解は定着していると考えられるが「思考・判断」に関しては、批判的・理論的に判断することの大切さを認識するに留まっている。</p> <p>③ まとめ<br/>以上から、「知識・理解」においては内容的妥当性には問題はないと思われるが、「思考・判断」においては、教材等の検討を要すると考えている。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教科書がないことから、予習・復習がし難い授業である。15回の授業内容を纏めたものを作成する必要があると感じている。  
「説明が理解できない」、「意味が分からない」というコメントがある一方で、「統計学を勉強していない人に合わせているのでつまらない」というコメントがあり、学力の格差が大きくなっている。  
相互に教え合うこと、分からないことは質問するよう、促しているが、両端に位置する学生に、教えること、質問することの苦手な学生が多いように思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

先ず考え自分で解答するように伝え、思考することを重視する授業を心がけている。  
しかし、「課題は授業を先にしてから解きたい」、「先に説明して欲しい」と言う学生がいる。  
暗記ではなく、自分で適切な情報を収集し、活用し、意思決定し、問題を解決するという過程の大切さに気付くような、身近な事例や課題作りに今後も努めたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |      |
|----|------|
| 学科 | 栄養学科 |
| 氏名 | 尾上 均 |

1. 基本情報

| 科目名  | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 生化学Ⅱ | 2    | 前期         | 必修      | いいえ      | 156       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|      | ○         | ○         | ○         | ×       | ×         |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①生化学という科目の本質上、講義では、特に論理的思考を促すことに重点を置いている。一年時の選択科目である「生活の中の化学」で講義した知識・理論と運動性をもたせるように心掛けている。今回の受講動機は、「必修科目である」98.6%、「資格取得に必要である」24.0%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」はわずか0.7%にとどまっている。苦手意識を持っている学生は、実際には最初から取り組んでいない（人並みに学習していない）だけで、本当に苦手であるかどうかは定かではない場合が多い。栄養学と生化学はその起源が同一という見方もあり、かつ国家試験受験資格取得に必須の科目でもある。好むと好まざるにかかわらず、栄養学を学ぶことを決意した以上は、生化学に正面から取り組むべきであることを第一回目の講義で説明した。また、生化学が生理学や基礎栄養学をはじめとするいくつもの科目と関連していることを折に触れ強調しつつ講義を進めた。</p> <p>②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。講義の前後、あるいは試験前に目を通したうえで、学習に取り組むことを勧めている。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |   |           |           |           |         |           |
|---|---|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| <p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して  | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|   | やや達成された   | やや達成された   | やや達成された   | どちらともいえない |         |           |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>受講者数は、再履修を含め156名であった。最終成績の平均は72点、不合格者は25名(未受験者3名を含む)であった(合格率は最近数年間では最高)。うち、優(80点以上)以上の成績を修めた学生は、70名と例年を上回っていた。一方、50点未満での不合格者が17名(未受験者3名を含む)もいた。成績が高得点と低得点の両極端に分布している傾向にあった。授業の予習が0または2回未満の学生が108名、一方、授業の復習が0または2回以下の学生が96名であった。ほとんどの学生が普段からの予習・復習は特に行っていないが、試験前に学習することで、充分合格圏に達していたと考えられる。50点未満での不合格者は、予習・復習を行わず、試験前の学習も不足していたのではないかと考えられる(要するに完全な勉強不足)。試験問題は、基礎的知識(化合物や代謝経路の定義等)と問う問題、基礎的な思考力を要する問題を併せて約9割、やや高度な思考力を要する問題を若干の割合で出題し、基礎問題だけでも合格点を達成できることを心掛けて作成した。合格者の点数の優劣は、主に基礎問題での得点率に依存していたように見受けられた。やや高度な思考力を要する問題の正解率が本年度は例年に比べて多かった。このことを反映してか、本年度は90点以上の高得点者が31名と例年を上回っていた。深く思考する姿勢をもった学生が今後増えていくことを祈りたい。今後、いかにすべての学生に意欲を持って受講させるかが課題と考えられる。</p> |           |           |           |         |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。例年より合格率が高かったこと、平均点、高得点者の数から考え合わせて、内容的には妥当と考える。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率の高さから、前二者に関しては、おおむね妥当な内容であったと考える。やや高度な思考力を要する問題は、意欲や関心を持って普段から学習に取り組む必要があるが、本年度は例年に比べて得点率が高かったことは、好ましい結果であると考えられる。今後この傾向が継続させることが肝要である。</p> <p>全体としては、おおむね妥当な内容であったと考える。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.0と昨年度の2.7よりは若干上がっていたものの相変わらず低かった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。次年度に向けては、思考判断の重要性をより具体的に示した上で、授業に参加するよう促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本年度は、合格率、平均点とも従来より高かった昨年度を上回るものであった。本年度は、達成度は向上しているものと考えられる。本年度も学生の受講態度は、2年生、再履修者ともに全体としては、高評価に値するものであった。このことは、2年続けて合格率の向上に寄与した要因の1つと考えられる。ただ、本年度の2年生は、講義後に質問に来る学生が、昨年度に比較しては少なかったため、得点率と合格率の低下が危惧されたが、結果は逆であった。このことの原因はわからないが、昨年度の2年生（現3年生）から寄せられた質問や疑問点を本年度にフィードバックすることに努めたのが、プラスに作用した可能性はあると考える。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 甲斐 達男 |

1. 基本情報

| 科目名  | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 微生物学 | 3    | 前期         | 必修      | いいえ      | 110       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①今回の受講動機をみると「必修科目である」97%、「資格取得に必要である」32%、「単位数を確保する」6%が主たる受講動機となっており、「関心のある内容である」は4%と極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ興味と関心を引きつけるようにしている。</p> <p>②昨年度までと同様、教科書を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進めることによって理解を深め、記憶する要点を示して学習の便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
|  | 達成された   | 達成された      | 達成された      | 達成された      |          |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>①本試験合格者は97名(89%、昨年は50%)、成績は秀6名(6%)、優53名(49%)、良20名(19%)、可18名(17%)、再試験合格者は12名全員合格であった。本試験の出来・不出来は、これまで試験日程に大きく左右されてきたことから、達成度については本試験と再試験の合格率で判断すべき科目である。その判断に年度差が生じないように、今回を含めてこれまでの試験問題を同一のもので実施してきている。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の合格率、および、成績はかなり高く、理想的レベルに達していた。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中全10項目について中央値を0.1～0.4ポイント超えており、昨年懸案であった評価項目(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」は3.0から3.1に上昇し、中央値を僅かに超えたが、この評価項目については本科目で到達を目指したものではないので改善措置を講ずる必要はないものと判断できる。昨年同様、評価項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」がもっとも評価が高く3.4ポイントであった。これは、本科目が目指している到達目標のなかでもっとも重視しているものであり、満足行ける結果が得られた。「授業の質」評価については、5項目の評価項目中全5項目において中央値を0.1～0.4ポイント上回った。「評価基準が明らかであった」項目で3.4ポイントが得られており、授業でもっとも気配りした点がきちんと評価された。</p> <p>③国家試験を受験するグループとそうでないグループの双方において達成度に差が観られなかった。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性<br/>本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。授業準備の欄で指摘したように国家試験を受けないことを決めた学生も受講するなど、動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性<br/>例年に比較して、成績評価が格段に向上していることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①昨年の課題であった「配布物が多いため、配布された順番がわからなくなる学生が観られた」点については、配布物に配布した順番を示す番号をつけることで改善された。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成について十分達成できた。  
②昨年課題であった、「免疫についてもう少し理解を深めさせるために時間が必要である」については、講義内容の調整と資料改訂によって改善された。  
③配布物に対する学生の意見を取り入れ、次年度はさらに改善を行い充実させたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 八木 康夫 |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 運動生理学 | 4    | 前期         | 選択      | はい       | 15        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>運動生理学の基礎的知識の定着を前提とし運動、栄養、運動関連代謝系との関係を理解できるように努めた。受講の動機は「関心があって受講した」と答えた者が36%だが、64%の学生は「単位数の確保」と4年生で卒業単位の調整をしており、消極的の学生ばかりと言えない。健康関係の情報は近年メディアを通して日常的に触れているが、断片的で不十分である。トピックス、ダイエット、体作り方法などを取り上げながら、自分自身を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。授業は、ノート提出、レポート提出、小テストを単元毎に設け、予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。小テストにはとても真面目に対応していると思われた。レポート作成では、各レポートごとに個別の指導を行い、論理的考察方法の道筋を会得できるよう努めた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|  |  |            |            |            |          |            |
|--|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された  | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された    |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>最終的な成績の平均値は74点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは4名(14名中)と予想に反して少なかった。受講動機は「単位数確保」の学生が64%であった。「関心がある」学生が36%で、その学生からのリードで活気のある授業をすることができたと思う。目標達成できたと答えた総数は14人(14人中)で高値を示した。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は14人、「事象理解の視点を得た」と思う学生は13名、「課題検討力」を得た学生13名、「判断力を得た」13名、「学習意欲が得られた」12名、「必要技能を得た」14名、「表現力の向上」11名、「倫理規範獲得」10名、「職業選択の参考」8名といずれも高い自己評価を持たすことができたと考える。欠席する者も多くなか全員が積極的に受講していたと考える。今後、関心度に関わる数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。またその歴史なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性<br/>本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。授業準備の欄で指摘したように国家試験を受けないことを決めた学生も受講するなど、動機付けを工夫をする必要がある。本講の学生は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>② DP、行動目標からみた内容的妥当性<br/>成績評価から思考判断に関する達成度が比較的良かったが、思考判断として何を問っているか学生に伝わらなかった可能性を示している。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ<br/>以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会を設けたが平均が3.0であった。事例を取り上げて検討をする機会を作ったが、じっくり考えてもらう時間は十分に作れなかった。復習の時間が想定より少なかったことも反省点である。次年度に向けては、第一に、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。学生の意見として、配布物の記入箇所を工夫することで時間が作れるのではないかとあった。これは取り入れていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。授業過程を振り返ってみたとき、事例をじっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで更に改善を図りたい。以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。また、内容の整理を行うことで、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。また、配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 古田 吉史 |

1. 基本情報

| 科目名  | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 食品学Ⅱ | 2    | 前期         | 選択      | いいえ      | 104       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①食品学Ⅱは管理栄養士の必須科目でもあるため、ほぼ全員の学生が受講している（受講動機からも読み取れる）。ただし、食品学Ⅰとは異なり食品学Ⅱは、実際の食品により近い内容であるため、学生に理解しやすいようにできる限り多くの具体例を挙げて説明することを心掛けた。</p> <p>②また、同時期に開講する食品栄養実習（加工食品の製法や特性について学ぶ）での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。</p> <p>③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。</p> <p>④昨年学生から挙げた「配布プリントの記入スペースが小さい」という意見については、スペースを大きくし改善に努めた。</p> <p>⑤講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |            |            |            |          |            |
|---|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | 達成された  | 達成された      | 達成された      | 達成された      |          |            |
| (2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  | <p>最終的な成績の平均点が88点、再試験対象者が6名で、理想的レベル（90点以上として試験を作成）が全体の63%であったこと、また自由記述の意見に「分かり易い授業であった」等の記載が見られたことから、概ね「知識理解」と「意欲関心を引き出す」という観点においては、当初の目標を達成できたのではないかと考えられる。</p> <p>「思考判断」に関しては、学生の到達度自己評価において「課題を検討する力を得ることができた」や「的確に判断する力を得ることができた」の項目がどちらも中央値が4となっており、自身の能力をある程度評価していることが読み取れる。また、今年度から定期試験問題に思考判断を問う問題を新たに加えたが、その平均点が10点満点中7点であったことから、思考判断能力も概ね醸成することができたのではないかと考えられる。</p> <p>しかし、（好ましいことではあるが）昨年に引き続き平均点が88点というのは少し高すぎるという印象である。次年度は平均点が80～85点となるよう、問題の難易度と出題範囲について再度工夫を行いたいと考えている。</p> |            |            |            |          |            |
| * 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 |  |            |            |            |          |            |
| <授業評価の指標><br>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など                               |  |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性<br/>本科目は専門の選択科目であるが、i 管理栄養士には必修の科目であること、ii また実際の食品に関する内容で管理栄養士資格取得希望の有無に拘らず、広く「食」に関連する仕事を志す学生にとっては非常に関心が高いことからほぼ全員が受講している。また、受講したほとんどの学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性<br/>「知識理解」「思考判断」「意欲関心」の何れの達成度についても問題ないと考えられる。</p> <p>③まとめ<br/>以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方に関しては、（学生による意見討論や情報収集に重きを置くのではなく）講義中に如何に学生らが講義の内容に興味・関心を抱き、限られた時間の中でどれだけ多くの事柄を集中して学べるかということを重視して講義に取り組んだ。そのために、穴埋め式の配布テキストを毎回学生に提供しているが、学生からの意見でも、「授業の説明が分かりやすい」等の意見が見られたこと、並びに授業の質評価における「説明は理解しやすいものであった」の項目の平均点が4.2であったことを鑑み、授業の進め方としては次年度もこの方式を採用していきたいと考えている。  
また「スライドの緑の字が見えにくかった」という意見については、次年度は是非改善したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

基礎的知識の習得、思考判断能力の育成、意欲・関心の醸成の何れに関しても、概ね目的を達成することができた。  
期末テスト問題の難易度とスライドの文字の色に関しては、次年度改善を図りたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 古田 吉史 |

1. 基本情報

| 科目名         | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-------------|------|------------|---------|----------|-----------|
| フードスペシャリスト論 | 1    | 前期         | 選択      | いいえ      | 90        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①フードスペシャリスト論は、フードスペシャリスト資格の導入科目であり、取得を目指す学生や資格に関心のある学生が多く受講している（学生の受講動機からも読み取れる）。しかし、フードスペシャリスト自体が学生らにとって馴染みのない資格であるため、今年度は1限分をフードスペシャリスト資格についての内容説明（特徴や資格取得のメリット、受験手続等を含める）と学生からの自由な質問を受け付ける時間に充て、資格に対する学生の理解度の向上を図った。</p> <p>②また、本科目はフードスペシャリスト資格要件科目全般の網羅的な内容であるため、できる限り広範囲に広く・浅くを心掛けて教授した。</p> <p>③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。</p> <p>④講義終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p> <p>⑤昨年度は図書館やインターネット等の情報を学修に利用した学生が非常に少なかったため、今年度はフードスペシャリスト論全般の内容の中から学生自らがテーマを選択し、それに関する情報を収集してまとめる課題を学生たちに提供した。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|---|--|------------|------------|------------|----------|------------|
|   |  | 達成された      | 達成された      |            |          |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>最終的な成績の平均点が90点、再試験対象者が1名で、理想的レベル（90点以上として試験を作成）が全体の63%であったこと、また自由記述の意見に「説明が丁寧で分かりやすかった」「楽しく学ぶことができた」「興味のある内容であった」等の記載が多数見られたことから、「知識理解」の面において当初の目標を達成できたのではないかと考えられる。</p> <p>しかしながら、（好ましいことではあるが）平均点が90点というのは高すぎるというのが正直な印象である。次年度は、平均点が80～85点程度となるよう、期末テストの問題の難易度と出題範囲、課題の内容等を工夫したいと考えている。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|   |  |
|---|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性<br/>本科目は専門の選択科目であり、i フードスペシャリスト資格の取得を目指す学生や ii 資格取得に関心を持っている学生らが受講している。受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性<br/>「知識理解」の達成度について、学生の到達度自己評価および最終の成績評価から問題はないと考えられる。</p> <p>③まとめ<br/>以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p> |
|---|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方に関しては、穴埋め式の配布テキストを毎回学生に提供しているが、学生からの意見で「説明が丁寧で分かりやすかった」「楽しい授業でした」「興味のある内容でした」等の意見が多数見られたこと、並びに授業の質評価においても「説明は理解しやすいものであった」の項目の平均点が4.0であったことから、次年度もこの方式を採用していきたいと考えている。  
また「配布テキストの文字や穴埋めのスペースが小さい」という学生からの意見については、次年度できる限りの改善を図りたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

知識の習得と理解という面では、概ね目的を達成することができた。  
次年度は、期末テスト問題や課題の難易度、配布テキストの文字と穴埋めスペースについてできる限りの改善を図りたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 山田 志麻 |

1. 基本情報

| 科目名         | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-------------|------|------------|---------|----------|-----------|
| フードコーディネート論 | 3    | 前期         | 選択      | いいえ      | 88        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①この科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。そのため「専門教育科目」、「専門基礎分野」の選択科目である。必要科目12科目のうち、この科目を含む2科目のみ3年前期で開講され、その他の科目は2年生までに履修済みである。そのため学生にとっては計画的に学習が進めにくいのではないかと予測される。</p> <p>②今回の受講動機をみると「資格取得に必要である」が74.1%と資格取得の意志が強く見受けられる。</p> <p>③出題範囲の講義を行い、その後、過去問を配布し、繰り返し学習するよう促した。また、2年生までにすでに履修した科目の復習をすすめ、認定試験の概要について説明し、学習意欲を促すように努めた。</p> <p>④食品開発やフードコーディネートに興味を持つきっかけ作りとして、外部講師による「食の企画と実践」の講義を行った。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|---|--|------------|------------|------------|----------|------------|
|   | やや達成された  | やや達成された    |            |            |          |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>学生の自己評価到達度では「知識を確認、新たに知ることができた」が3.3点と高く、認定試験合格に寄与していると考えられる。また、成績平均値は82±8.3点と全員がほぼ理想レベルに達した。理想レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達していたのは88名中58名とまずまずの結果だった。</p> <p>他の科目と異なり、出題内容や出題傾向が過去問等で開示されており、また、認定試験の12科目の1科目にすぎないため、過去問を繰り返し学習することで、高得点が期待される。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性<br/>本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」の選択科目で、フードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。授業準備の欄で指摘したように受験に必要な科目12科目のうち、10科目は2年生までに履修済みで、本科目を含む2科目のみ3年前期に開講される。そのため、12月に試験が実施されるまでの動機付けに苦慮する面がある。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性<br/>過去問をよく学習しており、問題内容もよく熟知され、問題数も少ないため成績が非常に良かった。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、認定試験用の受験科目の1科目としては内容的妥当性に問題はないと思われる。ただし、すでに履修済みの科目10科目の学習においては、学科として、過去問の印刷物の配布や自主学習の意欲向上に努めなければならない。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

認定試験受験科目のため、講義の内容として、過去問出題率の高い項目に関して特に重点を置いて学生に周知させたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

過去問を中心としたテスト内容で平均91点を獲得していたため、来年度の講義内容も今年に準ずることとする。ただし、課題としては、過去の出題が多い過去問内容に重点をおき、また、講義内容が単調にならず、飽きさせないようにスライド等の工夫を行う。さらに、複数回の小テストの実施により、問題に慣れされることが合格レベルに達する近道であると考え。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |      |
|----|------|
| 学科 | 栄養学科 |
| 氏名 | 尾上 均 |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 生化学実習 | 2    | 前期         | 必修      | いいえ      | 104       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①実験を中心とした実習科目であることから、本科目では、事実や結果を客観的かつ正確に観察し、その上で論理的に解析、考察に取り組むことに重点を置いている。講義科目である生化学ⅠおよびⅡで講義した内容との連動性を重視している。今回の受講動機は、「必修科目である」100.0%、「資格取得に必要である」19.4%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」はひとりもおらず0.0%であった。今年の受講学年は、同時期開講の生化学Ⅱにおいては、良好な平均点と合格率を示している。座学で得た知識や論理を以下に実践の場で、活用しさらに発展させる力を養うことが、将来管理栄養士として現場で日々遭遇することになる膨大な情報、事例を客観的に把握、分析・解析し、根拠に基づいた栄養指導、治療を実現していく上で重要であることを強調して、授業を進めた。</p> <p>②例年用いている私が作成した実習書に、必要な変更や改訂を加えて配布した。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|  |  |            |            |            |          |            |
|--|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | どちらもいえない   | どちらもいえない   | やや達成されなかった | やや達成されなかった |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>最終成績の平均は71点、不合格者は0名であった。うち、優(80点以上)の成績を修めた学生は、0名であった。本科目の成績評価は、レポート60%、授業への取り組み40%で行っている。レポートでの評価内容の内訳は、知識理解20%、思考判断35%、関心意欲5%、一方、授業への取り組みでの評価内容の内訳は、知識理解10%、思考判断25%、関心意欲5%である。実験中に観察された事実、あるいは実験から得られたデータを客観的かつ正確に把握し、それらを論理的に解析することにより結果を導き出す、あるいは疑問点についても論理的考察を加えることを学生に要求し、それらの点を評価した。ほとんどの学生が実習にまじめに取り組んでいたこと、またそのかなりの割合の学生が積極性や意欲も見せていたことが、実習への取り組みに対する高い評価に結びついた。その一方、高得点者が少ないのは、客観性、正確性、および論理性がレポートに表れておらず、多くの学生のレポート評価が低いためであると判断される。座学に比べて実習の成績が低いのは、教科書的な丸暗記等はまじめにこなすが、予想しない結果がもたらされることが多い実験において、得られた事実を論理的に分析する力あるいは意欲が低いと考えられる。レポートの評価が低いもう一つの明らかな要因は、文章の稚拙さ、不正確さ、および用いた記号や語句の定義がなされていないなど、国語力に根ざしたものである。また、不自然に似通った文章や論理展開を含むレポートが複数見られたことも低評価の要因である。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。平均点や合格率だけをみると、内容的には妥当と考えられるが、学生が考える力をつけるという点(数字には表れにくい)においては、これからも改善を目指していきたい。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、および思考判断を問う科目である。前者に関しては、おおむね妥当な内容であったと考える。思考判断に関しては、今後の課題となる。</p> <p>全体としては、一応妥当な内容であったと考える。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.2と昨年の2.9に比べると多少上がっているものの、本年度も一番低かった。説明の仕方、実習書の図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度の合格率、平均点とも例年と同レベルであった。座学の成績から考えるともっと好成绩を期待したい。学生に実践の場で考える習慣、力をつけさせる工夫を模索していきたい。次年度は、本科目が生化学の講義内容と運動していることをさらに強調し、学生の意欲促進を目指す。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 古田 吉史 |

1. 基本情報

| 科目名    | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|--------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 食品栄養実習 | 2    | 前期         | 必修      | いいえ      | 99        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①食品栄養実習は必修科目であるため2年生の全員が受講している（受講動機からも読み取れる）。同時期開講の食品学Ⅱの内容を、実体験を通して具体的に！より深く！真剣に・楽しく学ぶ！ことに重点を置き、授業に臨んだ。</p> <p>②食品学Ⅱの講義内容を極力リンクさせること、並びにレポートの各項目ごとに課題を与えて自ら調べてまとめる機会を提供することで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。<br/>（昨年度の改善点であったレポート課題の学生への説明については、実技前の解説時に時間を掛けて誤解が生じないように詳細な説明を行った）</p> <p>③実習書や食品学Ⅱの講義でカバーしきれない内容については、適時配布資料を準備し学生に配布した。</p> <p>④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
|  |   | 達成された      | 達成された      | 達成された      |          |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>再試験対象者が2名（但し、どちらもその後退学）で理想的レベル（90点以上としてレポート試験を評価）が全体の64%であったこと、また学生による到達度自己評価において全ての項目の中央値が4であったこと、さらに自由記述の意見に「説明が分かりやすく楽しい」「実際に作ることで、食材成分についての理解が深まった」「毎回、実習に来るのが楽しみであった」等の記載が多く見られたことから、概ね当初の目標を達成できたのではないかと考えられる。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性<br/>本科目は必修の科目であり全員が受講。受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性<br/>昨年度までは本科目はDP上の「知識理解」にしか該当していなかったが、提出を求めているレポート中には結果考察や課題に対する解答も含まれているため、本年度からはDP-2の「思考判断」にも該当するとして変更を行った。学生の到達度自己評価（中央値が全て4.0）および最終の成績評価から内容的には妥当で問題はないと考えられる。</p> <p>③まとめ<br/>以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方に関しては、学生からの意見の中に「説明が分かりやすかった」「理解しやすかった」「実習の中で一番楽しかった」等が多く見られたこと、並びに授業の質評価においても全ての項目の中央値が4.0~5.0であったことから、次年度も今年度とほぼ同様な形式で進めていきたいと考えている。  
また、毎回のレポート課題についても、実技前に詳細な説明を加えることで、昨年度見られたような一部ポイントがズレた解答等はほとんど見られなかった。  
実習の内容については、今年度は旬の食材である「梅」を用いた加工実習を一部取り入れたが、次年度は北九州地域に伝わる伝統的発酵食品である「糠床」を取り入れた実習を実施できないか検討を行ってみたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総合的に判断して、概ね目的を達成することができた。  
次年度は、上記6に示したように実習内容の一部に、北九州地域の伝統食材を取り入れた加工実習を実施できないか検討を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 甲斐 達男 |

1. 基本情報

| 科目名     | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|---------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 食品衛生学実験 | 3    | 前期         | 必修      | いいえ      | 108       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ×          | ○          | ×          | ×        | ○          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①今回の受講動機をみると「必修科目である」99%、「資格取得に必要である」35%、「単位数を確保する」12%が主たる受講動機となっており、「関心のある内容である」は4%と極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ興味と関心を引きつけるようにしている。</p> <p>②昨年度までと同様、実験班のチームワークが円滑に進むような人員配置になるよう配慮することによって各自の理解を深め、臨機応変に課題やレポートを課すことによって要点と技術を会得できるよう便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって重要科目である「食品衛生学」を体験的に学ぶための科目であり、卒業後の勤務先で必要となる知識や技術を習得するための科目であり、その点に気を配りながら授業を進めている。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
|   |   | 達成された      |            | 達成された      |          |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>①最終成績の平均値は88点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、90点以上の秀評価55名(昨年47名)、80点以上90点未満の優評価28名(昨年18名)と、極めて理想的なレベルに達している者が78%という大変好ましい結果であった。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中全10項目について中央値を0.4～0.9ポイント超えていた。評価項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」で3.9を示し、受講生が新たに得た知識や技術に対して十分に手ごたえを感じていることが示された。「授業の質」評価については、5項目の評価項目中3項目について中央値を0.1～0.3ポイント下回ったが、3.7～4.2という高値を示した。「評価基準が明らかであった」項目で4.2ポイントが得られており、授業でもっとも気配りした点がきちんと評価された。中央値をやや下回った評価を具体的に示すと、(3)「説明は理解しやすいものであった」、(5)「疑問に答える機会が作られていた」の2項目であり、次年度の改善目標項目となった。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|   |  |
|---|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性<br/>本科目は実験科目であり、「専門基礎科目」である「食品衛生学」をサポートする位置にあり、管理栄養士の職場において必修となるものである。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみての内容的妥当性<br/>成績評価から「思考判断」「技能表現」ともに達成度が高かったことと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|---|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①「説明は理解しやすいものであった」の授業の質評価で僅かに低いポイントであった理由は、本科目が「化学」をベースにしたものであり、高校時代に化学を十分に受講していない受講生がほとんどであることが一つの大きな要因として挙げられる。次年度は、さらに、実験の目的・手法・原理の説明を工夫して改善したい。

②「参加する機会が作られていた」の授業の質評価でやや低いポイントであった理由は、本科目が「実験」という全員参加型の授業であることからすれば理解し難いので、次年度の課題として何が問題なのかを十分に把握した上で対処法を検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①基礎実習のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、成績評価を鑑みると、基礎的知識と技術の形成については概ね達成できた。

②受講生が比較的苦手とする化学実験であり、実験目的・手法・原理について、昨年に比べかなり改善されたが、さらに、判りやすくするための工夫を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 山田 志麻 |

1. 基本情報

| 科目名     | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|---------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 応用調理学実習 | 2    | 前期         | 選択      | はい       | 99        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①この科目は基本的な調理ができることを前提とし、さらに応用力を養う実習であるため、まずは調理技術を学生自身が実践し、応用力を身につけることが最も重要であると考えた。そのため出来るだけ種類の料理を作る機会を与えるため、師範を簡単にし、講義内容はテキストでの説明とポイントのみに絞り、自ら考え作れるよう促した。</p> <p>②応用調理学ではあるが、1年前期に調理科学実験の講義が無いため、学生はただ料理を作ることしか知らず、それがなぜかという、科学的根拠を知る機会がない。そのため、調理科学的な内容を含み、また今後の大量調理などの実習も見据え、食品の重量や盛付重量の把握、調味料の計算なども実習内に取り入れた。</p> <p>③事前に予習をさせるため、前週にキーワードやポイントを中心とした予習課題を配布し、実習当日の始めに提出させた。</p> <p>④学生が自ら、多種のメニューを作れるよう、師範をすべて行わず、ポイントだけに絞るという実践優先の実習形式とした。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |            |            |            |          |            |
|---|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | やや達成された  | やや達成された    |            |            | やや達成された  | 達成された      |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>成績平均値は83±12.4点と全員が標準レベルに達した。理想レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達していたのは95名中67名であった。6名が追試となった。学生の学習到達度を見ると、「自分なりの目標に達した」が3.8点、「知識を得た」が4.1点、「的確に判断する力を得た」は4.0点、「学びを深める意欲」4.0点、「技術を身につけた」が4.1点であった。授業の質の評価では、「説明は理解しやすいものだった」が4.0点と高かった。以上のことより、1年後期の基礎調理から一貫して調理技術の習得に力を入れた結果、調理技術のレベルが向上したと考えられる。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性<br/>「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を1年次の基礎調理学実習と2年次の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくす努力をしたい。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性<br/>コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高く、自己啓発や研鑽しようとする態度が伺われた。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.0と高かった。これは1人1人が献立作成を行い、グループワークにより班ごとのオリジナル献立を考え、デモンストレーションおよびプレゼンを行った結果であると考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。  
①初回は1年次の基礎調理学実習の復習を踏まえた実習内容にする、②15週の間でアンケートを取り、学生の要望や困っていることなどを早期に確認する、③学生の理解度を把握するために小テストや実技テストを行い、自主的に学習を心がけるよう指導する。④この学年は実習に出席したにもかかわらず、進路の変更や学業に対する悩みから、受験資格があるにも関わらず、定期試験を受けなかったり、試験勉強をせずに定期試験に臨んだ学生が数名見られた。実習に出席し、基本的な技術も身につけていたにも関わらず、進路や学業、精神的な問題等により単位を取得できなかった学生がいた。今後このような学生の対応を早急に行い、未然に防止するよう、何らかの対策が必要であると考え。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 南里 宏樹 |

1. 基本情報

| 科目名     | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|---------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 基礎栄養学 I | 2    | 前期         | 必修      | いいえ      | 100       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①受講動機に対する回答で、「必修科目である」が98.9%であるのに対し、「資格取得に必要である」と答えたものが16.1%と、2つの数値に大きな差があった。これは、この項目が複数回答可であることを知らなかった学生がいたせいかもしれないが、いずれにしろ、この科目が、卒業および管理栄養士受験に必須であることは、更に強調するようになりたい。また、「関心のある内容である」と答えたものもわずか3.2%に留まっていたが、栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて、説明していきたい。</p> <p>②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行った。</p> <p>③8回目に確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するパワーポイントの資料は、常に修正し、よりわかりやすい内容としている。</p> <p>⑤授業内容を予習・復習するための練習問題、管理栄養士国家試験の過去問とその解説を配布し、予習復習の助けとなるようにした。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|  |  |            |            |            |          |            |
|--|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された  | 達成された      | やや達成された    |            |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>試験成績の平均値(100点満点)は、Aクラス78.2点(±13.0)、Bクラス75.9点(±13.5)であり、80点以上のものはAクラス、Bクラス共21名、70点～79点Aクラス15名、Bクラス14名であった。昨年度と比べると、平均点が6～8点上昇し、成績が向上した。本試験不合格者(60点未満)及び試験欠席者がAクラス4名、Bクラス7名であった。再試験は6名が受験したが、受験した全員が合格した。</p> <p>授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、項目(8)のコミュニケーション力・表現力(3.0点)を除いて、平均点が3.2点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」については3.6点、項目(5)の「専門分野における確かな判断力の獲得」については3.5点と比較的高い評価であった。項目(8)については、講義系科目の性質上、限られた時間内に多くの事柄を伝える必要があることから、知識理解に重点をおいた講義になるのは、ある程度、やむを得ない。また、本科目のDPにも該当しない。</p> <p>また、「学習量の評価」で、30分以上の予習または復習を複数回実施している学生がそれぞれ約40%で、半分に満たないことから、予習・復習問題などの課題を与えることで自習時間の増大を図りたい。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>① C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性<br/>本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり、卒業必修及び管理栄養士国家試験受験資格取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績において学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>② D P、行動目標からみても内容的妥当性<br/>本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)の成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③ まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目（1）の「評価基準は明らかであった」が3.6点、また、項目（2）の「学習の範囲・課題は明らかであった」および項目（3）の「説明は理解しやすいものであった」が3.5点と比較的高かった。学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できたのではないかと考えられる。

学生の自由記述で、「一人でしゃべっているだけ」という感想があったが、基礎的知識の伝達が講義の主目的なので、一方通行の講義になってしまいがちであるが、なるべく要点をしぼり、簡潔に説明することによって、学生との質疑応答の時間を取るようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎的知識の形成については概ね達成できたと思われる。これからは、基礎的知識を生きた知識として実践現場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていく必要がある。

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 天本 理恵 |

1. 基本情報

| 科目名    | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|--------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 応用栄養学Ⅱ | 3    | 前期         | 必修      | はい       | 108       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①応用栄養学Ⅱは、応用栄養学Ⅰに続く科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が98.9%、「資格取得に必要である」が40.4%となることは、当然の回答であり、「関心のある内容である」が6.4%と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ（2年後期）の講義を学生の関心を引き付けるような具体的な内容で実施し、学生のモチベーションを保ちつつ、応用栄養学Ⅱの講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある、これは毎年度の課題であるが、難しいのも現実である。</p> <p>②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、講義内容に興味を持つことが出来た等意見が出てきている。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく予定である。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|  |   |            |            |            |          |            |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>   | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された   | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された  | やや達成された    |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は107名の受講生中、A(秀)が8.4%、B(優)が37.3%と多く、C(良)30.8%と優の次に多かった、D(可)が16.8%で、不可の学生は7名であった。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生全員が標準的レベルに達しており、8.4%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、62%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後はもっと予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもありと考える。このことから、受講動機「必修科目である」が98.9%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、62%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は72.5%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だという思いが学生たちにあると考えられる。ただし、シラバスを参考にした学生の67%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。初回にシラバスを印刷したものを配布しているので、これに講義前には目を通すことを促したい。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。また、学生の意見の中に「板書がはやい」という意見があった、これに関しては、一昨年度にも同じ要望があり、板書スピードを遅くした経緯がある。授業の進行上、個々人のノート記入スピードに合わせた対応は難しいため、ノート記入が間に合わなかった学生に関しては、復習時に友人からノートを見せてもらう、担当教員に聞くなどの自己学習を行うよう促している、今後もそのように促していく。大教室では「白板の文字が見えない」という意見もよくある。後方の座席の学生までが見えるホワイトボードマーカーを購入する予定（個人管理）である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。3年後期には本科目の実習科目がスタートする。この実習科目において、さらに復習を重ね、その実習の到達目標達成に効果が出るよう努力していく。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 久保 由紀子 |

1. 基本情報

| 科目名    | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|--------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 栄養教育論Ⅱ | 3    | 前期         | 必修      | いいえ      | 110       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は管理栄養士国家試験受験資格取得のための必修科目であり、臨地実習Ⅱ・Ⅲの要件科目でもあることから受講動機は「必修科目である」98.0%となっており、科目に対する意識は十分に持ち合わせているものといえる。しかしながら「資格取得に必要である」32.4%回答しており要件に対しての理解が不十分であることも推測される。臨地実習における学習目標を設定することができるよう具体的事例を示し解説した。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |            |            |            |          |            |
|---|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | やや達成された  | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された  | やや達成された    |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目の本試験成績の平均値は70.6 (±11.4) 点であり、再試対象者は10名であった。S評価3.7%、A評価22.0%、B評価27.5%、C評価37.6%、D評価9.2%となっており、全体的到達度自己評価は「達成した」と回答したものが91.3%であった。しかし到達度自己評価において8.7%が「自分なりの目標を達成できていない」としており、また標準偏差が大きかったことは、学生の修得状況における個人差が大きかったことが推測される。次回講義内容について教科書ページを示し、予習しておくよう指示したが、予復習については「0回」76%、「1回」16.3%、となっている。中間でテストを行う等で予復習の習慣づけを確認するとも必要ではないかと感じた。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は「専門教育科目」の専門分野であり、栄養士・管理栄養士として活動するすべての分野に必要なとされる業務「栄養教育」を行うために必要とされる知識及び技術の修得、態度の醸成を目的としている。「学習到達度の自己評価」において各項目90%以上の評価をしており内容的妥当性に問題はないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価に対しては各項目「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と回答したものは90%以上である。しかし、授業中の発問や授業終了後の振り返りにおける感想、質問の記述は多くみられない。自分の考えを纏めて発言できるよう場面設定を多く取り入れていく必要があると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

同時期開講の専門分野の他教科と進捗状況が同時であったりすることもあり、情報に対する新鮮さにかける傾向がある。このことが予復習に対する意欲が失われ、理解度の差を生じているものと推測される。どのように応用するかという具体的例示をさらに多く取り入れるようにしたい。また後半の学習に対する意識喚起のため実施した中間テストの成績を学期定期試験の成績評価に加味することを検討したい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 手嶋 英津子 |

1. 基本情報

| 科目名        | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|------------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 栄養カウンセリング論 | 3    | 前期         | 選択      | いいえ      | 109       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は選択科目であるが、栄養士および管理栄養士受験資格の必須科目として位置付けられているため、多くの学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。本科目では、授業の課題以外学習していない学生が半数程度見られた。栄養学科3年前期は開講科目が多く、臨地実習前ということもあり課題の多い時期である。自由記述でも学習をしていない理由に「忙しかった」とあり、十分な時間を確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、次年度は明確に課題の提示を行う必要があると考えている。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|  |   |            |            |            |          |            |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された   | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された  | どちらともいえない  |
| (2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  | <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>   |            |            |            |          |            |
|  | <p>本科目の最終的な成績の平均値は78.4(±7.7)点であり、再試験該当者は2名であった。標準的レベル(70点以上)に達したものは36%、理想的レベル(80点以上)に達したものは52%であった。到達度自己評価では約94%の学生がすべての項目において、「まあまあと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と評価しており、全体を通して項目に差がないことが示された。試験内容としては、すべて講義内容からの出題であり、講義内容の知識の修得は概ね達成されたと考える。昨年度、試験の中の思考判断に関する問題の点数が全体的に低かったため、今年度は授業の中で学生自身が主体的に考える時間を設けた。また、本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としているため、コミュニケーション力や表現力を高める知識・技術の修得が必要である。しかしながら、コミュニケーション力や表現力を高めることができたかの項目では、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えた学生は51%であり、約半数は十分に達成されていなかった。来年度も引き続きコミュニケーション力、表現力を高めるために授業内容の改善をしたいと考える。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|   |   |
|---|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であり、管理栄養士国家試験の栄養教育論の中で出題される分野である。特に管理栄養士として就職を考えている学生にとっては、本科目は必ずしも身に付けておくべき分野である。学生の達成度自己評価においては、全ての項目において約94%の学生が達成したと回答しており、また最終成績においても88%の学生が標準的レベルに達していたため内容的妥当性については問題ないと考えられる。しかし、科目の特性を考えるとDP5[技能表現]に対する達成度の全体レベルをあげるために、ロールプレイを充実させる等内容を深めていきたい。</p> |
|---|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年度の授業評価では、授業の質評価において、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が3.3で他の評価と比べ低い値であった。そのため、今年度は授業後の感想や質問が自由に記述できるようにワークシートを作成し、毎時間提出とした。また、質問がしやすいように適宜声掛けをし、授業の中での疑問点や要望にその都度対処するよう努力した。昨年度の反省点を踏まえ、今年度は学習のポイントを整理しやすいようにワークシートを作成した。また、主体的に授業に取り組めるように、学生同士で考える時間や意見交換のできる時間を積極的に設けた。

自由記述の意見では、「グループ活動があつてよかった」「ロールプレイをしてとてもよかった」とあり、次年度も引き続き授業に取り入れたい。要望としては、「試験範囲を早く言ってほしい」との意見があり、試験の日程を考慮して次年度は試験範囲を伝えるようにしたい。「プリントの大きさがバラバラでつづりにくい」という意見があったため、後期の授業でプリントの綴じ方を説明した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識の修得が達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないと考える。

昨年度の反省より、学生が能動的に取り組めるように考える時間や意見交換の時間を設けた点は良かったと評価できるため、次年度は課題であるコミュニケーション力や表現力を高められるように授業内容を工夫したい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 近江 雅代 |

1. 基本情報

| 科目名    | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|--------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 栄養治療学Ⅰ | 3    | 前期         | 必修      | いいえ      | 111       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|      | ○         | ○         | ○         | ○       | ○         |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は『必須科目である100%』との理由である。にもかかわらず、授業準備性について、十分とは言えず、受講後の準備も不足していた。今年度より、事前事後学習を促す取り組みとして、確認テストの導入を試みたものの、十分な成果は得られなかった。栄養学科3年前期は開講科目が多く、学外実習が始まる時期でもあり、学生も多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、次年度以降、確認テストの導入に加え、何らかの課題を提示することにより、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して   | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|---|--|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|   | やや達成された  | やや達成された   | やや達成された   | やや達成された   | やや達成された | やや達成された   |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目の本試験成績の平均値は61(±12.6)点であり、本試験合格者は全体の66%であった。また、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況は個人差が大きかったことが考えられる。実際には、21名(18%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は8名(7%程度)であった。また、2015年度の成績(63(±13.8)点)に比し、今年度の点数がやや低下したことは、本試験の難易度が上がったことが一因であるものと推察される。試験内容としては、全て講義内容からの出題であったことに加え、今年度より、確認テストの導入を試みたにも関わらず、標準的および理想的レベルに達成できた学生が少なかったことは、目標達成に向けた教授方法の検討ならびに課題提示等、何らかの対策が必要であることが明らかとなった。しかしながら、学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。学生としては修得できたとの認識があったものの、試験による評価において十分な成績を得られなかったのは、的確な知識の修得ならびに理解ができていなかったものと推察される。次年度以降、確認テストの実施に加え、何らかの課題を提示することにより、知識確認のための強化に努めたいと考える。</p> |           |           |           |         |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全員の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答したが、試験成績が伴っておらず、学生の達成度に対する認識と成績との間に乖離がみられた。原因の一つとして、シラバスの説明不足、特に、具体的な達成の目安に対する学生と教員との認識の差によるものと考えれ、次年度はより詳細なシラバスの説明を行うこととする。また、学生の達成自己評価の高さから、内容的妥当性については問題ないものとする。しかし、DP5[態度]に対する達成度自己評価は、他のDPIに比し低く、このことは、本科目の内容が知識の教授に偏在している可能性が示唆され、今年度に引き続き、次年度以降も管理栄養士として身につけるべき知識・技術のみならず、態度等についても、関連付けながら伝えたいと考える。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目では板書での記録としているため、自由記述として、『字が見づらい』『板書のスピードが速い』『字が汚い』との意見が挙げられた。このことは、取り入れるべき意見であり、教室での前列からの着席を促し、また、余裕を持って記録を取ることができるよう、配慮したい。また、板書での記録としているため、大多数の学生は自分なりのノートを作成したとの回答であった。ノートを作成することにより、講義内容の整理ができ、かつ、理解も深まるものと考えられ、板書による記録は今後も続けていきたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。しかしながら、試験成績における達成度が十分であったとは言い難く、学生の達成度と成績評価との乖離を縮小するために、シラバスの活用はもちろんのこと、講義内容ならびに1回の講義内容量について、再検討が必要であると思われる。また、今年度に引き続き、次年度以降も確認テストの実施し、学生の的確な知識の定着に加え、その理解度を量ることにより、学生の気づきを促し、さらには、自発的学習へと繋げたいと考える。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 境田 靖子 |

1. 基本情報

| 科目名    | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|--------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 公衆栄養学Ⅱ | 3    | 前期         | 必修      | いいえ      | 116       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ×          | ○          | ○          | ×        | ○          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は卒業必修科目であるが、後期に履修する臨地実習ⅡおよびⅢ（管理栄養士受験資格修得必修科目）の履修要件であることから、毎年、第1回の授業時に、本科目に課せられた要件を必ず説明している。しかし、履修動機「①必修科目であるを選択している」が98.1%は例年通りであるが、履修動機「②資格取得に必要である」が30.8%と、昨年より約30%ほど低下していることから、学生の資格取得に対するモチベーションが低下していると考えられる。</p> <p>例年、DP5の達成のために必要不可欠な「ヘルスプロモーションに基づく公衆栄養活動」について、2年時の復習を兼ねて第1回に実施しているが、昨年の反省から「具体例を紹介する」し、小テストにおいて「自分なりの具体例を考える」を取り入れた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |   |            |            |            |          |            |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | どちらともいえない   |            | 達成された      | やや達成された    |          | どちらともいえない  |
| (2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。   | <p>本科目の本試験の成績の平均値は、64.9 (±11.4) 点であり、ほとんどの学生が標準的なレベルを達成したと推察されるが、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは7名と、ごく一部であった。</p> <p>目標別のDP到達度では、DP2の思考判断の到達度は93.8%で、昨年と同じく目標が達成されたと考えられる。しかし、DP3の意欲関心（94%→90.2%）とDP5の技能表現（84%→79.5%）については、昨年よりやや低下した。これは、授業後半の小テストについて回収チェックしなかったことから、学生の学習量が低下したためと思われる。後半の小テストは、ほぼ教科書の内容のまとめや授業中配布のパワーポイント資料のまとめであったため、回収チェックをしなかったが、学生の立場からすると回収されないと「記入してまとめること自体をしなくなる」ため、学生による学習量の評価においても、「(1)授業に参加するために1回30分程度の以上の準備をどの程度したか」で0回の者が昨年の33%から62.5%に上昇してしまった。このことが、継続的な意欲関心を持つことにつながらなかったと考えられるため、次年度は小テストの回収チェックを復活することとしたい。</p> |            |            |            |          |            |
| * 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 |   |            |            |            |          |            |
| <授業評価の指標><br>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など                               |   |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|   |   |
|---|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①本科目は、2年時開講の公衆衛生学および公衆栄養学Ⅰを理解したうえで成立する科目であり、栄養行政についての具体的施策について学び、理解する科目であるため、CP上の位置づけは妥当であり、91%の学生が、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」と答えていることから内容的妥当性は確保できている。</p> <p>②栄養行政（公務員）の採用は、県で1～2名の採用、市町村においては採用試験すら実施されないため、学生は「国家試験受験のために必要な科目」と位置付けていると考えられる（職業選択の参考になった89.3%）が、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」が90.2%と高いことから内容的妥当性が確保されていると考えられる。</p> |
|---|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年度の反省から小テスト等の評価基準を明確にすることが目標であったが、小テストの回収そのものを後半は実施しなかったため、「評価基準が明確でない」が9%と悪化してしまった。次年度は、小テストの配点を明記し、回収するなど改善したい。  
行政、法律、社会保障などの理解には中学高校レベルの社会科の理解が必要であるが、理解に乏しい学生が見られ、基本的な部分からの説明が必要な状態で、臨地実習および国家試験合格のための内容を網羅しようとするとう授業時間数が圧倒的に不足している。自由記述にあるように、説明が早いという指摘があるため、「ゆっくり丁寧に話す」よう心がけているが、そうすると時間がぎりぎりになり、質問等の時間を設けることすら困難である。解決するために、今年度は講義内容を削除したが、まだ「説明が早い」「ついていけない」との意見があるため、公衆衛生学等他の科目とリンクするところは、次年度からいさぎよく削除することも検討したい。  
「黒板が見えにくい」という意見に対しては、教室前方に「前の席がいい人」の自由座席を設けているので、学生には活用していただきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

小テストの回収を後半は実施しなかったことから、学生の学習時間が大幅に減少し、理解度も落ちた。「回収しないと自主的に学習しない」ことがわかったため、次年度からは、どんな簡単なものでも回収するようにしたい。  
基本的な内容や、他の科目の復習をしていると講義時間が不足するため、次年度からが講義内容を大幅にカットし、「臨地実習レベルに必要なこと＝3年で」「国家試験レベルに必要なこと＝4年へ」と大胆に割り振る必要がある。

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 青木 るみ子 |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 給食計画論 | 2    | 前期         | 必修      | はい       | 108       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①管理栄養士および3年次学外実習の要件科目であり、専門科目としては初期に履修する科目である。以上のことから、履修同期としては「必修科目である」が98%を占める。</p> <p>②管理栄養士として栄養・食事管理を計画する過程を学ぶ科目である。そのため、給与栄養量などの算定方法等が含まれ、講義だけでなく演習を取り入れながら理解を促すことに努めている。</p> <p>③「学習準備性」にとしては、低いと思われた。理由としては、管理栄養士という職種に対しての理解不足が推察される。この点は、1年次担当科目である程度理解させる必要があると考える。</p> <p>④本科目は、後期科目「給食経営管理実習Ⅰ」の準備科目としての位置づけもしており、実習内容を意識させながらの講義を行っている。実際に、3年生前期科目「給食経営管理実習Ⅱ」で提供される給食の試食も義務化しており、栄養・食事管理の実際に触れる機会としている。今後の継続していくこととする。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|  |  |            |            |            |          |            |
|--|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>   | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された  | やや達成された    | やや達成された    | どちらともいえない  |          |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>成績評価の平均値は69.0(±11.0)点であり、再試対象者は27名であった。「知識理解」が標準レベル到達していない者が再試対象者となり、評価が低くなる要因となっている。授業評価の「授業の質評価」および「到達度自己評価」を見る限り、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」97.2%、「課題を検討する力」98.1%、「的確に判断する力」96.2%、「学びを深めたい意欲」92.5%と非常に高い評価である。以上のことから、DP1・DP2については、やや達成されたと評価される。一方で、「学習量の評価」では、約半数の者が、予習・復習などの授業以外の学習の取り組みでない状況であった。理由としては、「他教科の課題があり時間がない」ときう意見が大多数を占めており、限られた授業時間の中で知識の定着を促す授業展開の必要性を感じている。これにより、DP3の達成度は低いと判断した。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|   |  |
|---|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①本科目は専門応用分野としての位置付けであり、栄養・食事管理の実務的な科目である。管理栄養士という専門職種への関心を向上させる意味でも重要な位置づけを持つと考えられるため、得られた知識を実践につなげることができるように演習を併用することは一定の効果を得ていると考える。</p> <p>②DP3に関しては、学生の自己評価から3.5ポイントという数値が得られているか、受講態度を含めて総合して評価する必要があるように思われる。一方で、「評価基準」3.7ポイント、「説明の理解しやすさ」3.6ポイントと評価しており、授業内容や方法に関しては適切なものであったと考えられる。</p> <p>以上もことから、内容的妥当性は問題ないと考える。</p> |
|---|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目は、後期実習の準備科目として、説明すべき重要項目が多くある。そのため一方向からの講義形式になりがちであるが、学生が理解しているか確認をとりながら進めたため、「学生が参加する機会」2.9→3.1ポイント、「質問受け付け」3.1→3.3ポイントと若干であるが上昇が見られた。一方で、学生間の学習への取り組み意欲に大きな差が感じられる。多様な学生に、専門的な内容を理解させることの難しさを感じる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本学科の2年次前期という時期は、専門科目が多くなり、学生が今後の進路の適正に関して不安を抱く時期でもある。講義で得られた知識が、実践へと移行している現場を観察してもらうため、3年前期・給食経営管理実習Ⅱで提供される給食の試食を義務付け、専門科目への学習意欲の向上を狙っている。しかし、「学習量の評価」では、予習・復習ともに取り組めていない現状が明らかとなり、その理由が「時間が無い」「余裕がない」「やる気がない」などであり、学習意欲の向上に結び付けられなかったことが残念である。今後は、学生の質を見極めて講義内容の再構築をしていこうと思う。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 坂巻 路可 |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 栄養学実習 | 3    | 前期         | 必修      | いいえ      | 108       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>栄養学実習では、医療現場等における栄養マネジメントの考え方を実践的に理解し学ぶことを目的としている。本科目は、管理栄養士必修科目である。今回の受講動機では「必修科目である」が97%、次いで「資格取得に必要である」が33%であった。授業の予復習においては、学習準備性について62%、また復習については70%の学生が実施していなかった。昨年度、学習準備性が低い傾向が見られたため、本年度は実習の進め方や課題の量を検討し、変更を加えた。しかしながら、改善状況が思わしくなかったため、次年度に向け、継続して学習準備性の改善が図れるよう検討を行っていく。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|  |   |            |            |            |          |            |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された   | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された  | やや達成された    |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>総合的な成績の平均値は77.7(±6.7)点であった。再試対象は2名であった。本試験の成績については標準的レベルまたは理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは約44%であった。学生による授業評価においては、新たな知識を得て、自分なりの目標を達成している者の割合が90%を超えていた。また、学びを深めたい者は92%、様々な課題を検討する力を得た者は96%と割合が高く、自己評価については、どの項目もあまり差が認められなかった。学習の準備性については、4割を超えるものが予復習を行っておらず、また半数以上が授業の課題以外への自発的な取り組みは行っていなかったため、学習量とその内容を吟味し、今後の改善に繋げたい。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性について、本科目は管理栄養士必修科目であり、専門分野に必要な知識・技術の実践的な学びを目指している。学生による授業評価においては、自分の目標を達成し、新たな知識を得て、自分の専門分野について、様々な課題を検討する力を得ることができた者が9割を超えていた。併せて、専門分野で必要となる技術を身につけることができたことと評価している。成績評価においても、一定の成績を収めており、DP、行動目標の視点から思考判断に関する達成度も高く、内容的には妥当であるとする。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方について、初回にシラバスと進捗表を用い、オリエンテーションを行った。学生からの意見で、授業後半（第14回、第15回）は、期末試験が近いので調理実習や発表課題を控えて欲しい、という要望があったが、本実習の目的や意義について、繰り返し確認しながら実習を進めていくことが重要だと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、管理栄養士必修科目であり、専門分野に必要な知識・技術が実践的な学びに繋がっていくことを目指している。学習到達度の自己評価において、90%以上が目標を達成し、新たな知識を得て、的確に判断する力を得ることができたと回答している。授業は、演習と実習を組み合わせた授業形態をとっているが、授業の進め方や内容を精査し、授業への関心・意欲が高まるよう授業内容の改善を図り、学習準備性の向上へと繋げたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 久保 由紀子 |

1. 基本情報

| 科目名       | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 栄養教育論実習 I | 3    | 前期         | 必修      | いいえ      | 108       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は栄養士免許取得・管理栄養士国家試験受験資格取得のための必修科目である。受講動機は「必修科目である」98%となっている。予習をした回数が「4、5回」7.5%、「6回」9.3%、さらに「課題以外に取り組んだ」9.3%回答しており、授業進捗に先んじて意欲的に取り組んだことが窺える。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|--|--|------------|------------|------------|----------|------------|
|  | やや達成された  | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された  | やや達成された    |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目の定期試験及び実習から評価した平均点は71.3 (±7.8) 点であり、S評価15.0%、A評価42.1%、B評価38.3%、C評価4.7%であった。全体的到達度自己評価で「達成した」としたものが92.5%であった。初めての栄養教育の実習に対して積極的に臨んだ結果、達成感が得られたのであろうことが窺える。しかし図書館利用については「図書館の図書」、「データベース検索」が30%弱、「インターネット利用」が50%となっている。図書館の利用を促進したい。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は「専門教育科目」の専門分野であり、栄養士・管理栄養士必修となっている。栄養教育は栄養士・管理栄養士として活動するすべての分野に必要とされる人を対象とした業務であり、知識、技術の習得、態度の醸成を目的としている。「学習到達度の自己評価」において各項目「やや達成された」90%以上の回答あり内容的妥当性に問題はないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初めて栄養教育を計画・実施する科目である。ここで修得した知識や技術が他の専門科目へ応用されることから基本を十分に理解することをねらいとしている。自分で考え、組み立てていく力をつけるため、学生個々人に対して個別の指導に多くの時間が必要となるが、各々の理解度を把握しながら対応していくことが必要であると考え。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、学友を対象と模して初めて栄養教育を経験する場である。栄養士・管理栄養士として必要とされるコミュニケーションや倫理についても修得することを目標としている。緊張感をもって真摯に取り組むことで達成感が得られることを実感していることが達成度評価から推測できる。自発的に考え行動し、問題解決する力をつける為意見交換の場を多く作る等検討したい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 田川 辰也 |

1. 基本情報

| 科目名       | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 臨床栄養学実習 I | 3    | 前期         | 必修      | いいえ      | 108       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ○          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①3年生になって、実践が問われる専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な臨床的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の終了後レポートの提出を義務づけ、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用する実習書を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |            |            |            |          |            |
|---|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | 達成された  | 達成された      | 達成された      |            |          | 達成された      |
| (2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  | <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>   |            |            |            |          |            |
|   | <p>①実習の成績の平均値は田川担当が43(±1)点(50点満点)、南里担当が42(±2)であった。不合格者は退学した1名だけであった。理想的レベル(80%以上の得点)に達したものは田川担当で100名、南里担当で104名、総合で105名と90%を超えた。昨年度と比べると、平均点は平均点は昨年度より約6点上昇した。</p> <p>②学生の授業評価アンケートにて、「自分なりの目標を達成した」の平均点が3.4点と高く、1名を除いておおむね自分なりの目標を達成できていると答えている。この点からも、教育目標は達成されたと考えている。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性<br/>本科目は「専門応用科目」であり、必修である。国家試験の応用問題に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。レポートにて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性<br/>学生の成績は非常に高いことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

- ①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.4、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」の平均が3.5と高かった。学生の成績の高さを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深め、技術を身につける努力をするとともに、学生がより積極的に実習に参加できるよう改善していきたいと考える。
- ②学生の意見としては、「レポートを作る時間が作れなかった」と、なかなかレポート作成に苦労したことがうかがえる。
- ③インターネットを利用した学生は約40%であった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

- ①専門応用科目にあたる本科目の位置づけから、臨床的知識の形成については概ね達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「臨床栄養学実習Ⅱ」に引き継いでいく予定である。
- ②授業過程を振り返ってみたとき、レポート課題を課したことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。
- ③毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、レポートの課題の改善にて復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。
- ④配布物（実習書など）に関しては、学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 青木 るみ子 |

1. 基本情報

| 科目名       | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 給食経営管理実習Ⅱ | 3    | 前期         | 選択      | はい       | 108       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ○          | ×        | ○          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>選択科目であるが、栄養士・管理栄養士資格必修科目である。そのため、「必修科目である」と答えている学生が大半であり（99.0%）、また「資格取得に必要である」とする学生が36.7%であった。以上のことから、当該学年における資格取得への意識は高いことが示唆され、学習準備性に関しても十分であると判断される。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|  |   |            |            |            |          |            |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された   | やや達成された    |            | 達成された      |          | やや達成された    |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目の成績平均点は86.3(±4.5)点であり、学習目標は概ね達成されたと考える。学生の自己評価においては、「知識を確認、修復したり、新たに得ることができた」99.1%、「課題を検討する力を得ることができた」99.1%、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」97.2%と高い評価をしており、DP1(知識)およびDP3(意欲)については概ね達成されたと考える。また、学習量の評価では、「1回30分程度以上の準備をどれくらいしたか」に対して71.7%の者が1回以上は準備をしたと回答しており、学年全体を俯瞰して、積極的な取り組みの姿勢が得られたと考えられる。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>臨地実習Ⅰの準備性を高めるための科目でもあるため、特定給食施設の実務に則した内容を心掛けている。学生の自己評価では「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」99%、「職業選択の参考になった」100%と、高い評価が得られている。これは、2年後期の給食経営管理実習Ⅰにおける評価結果と同程度の評価となっており、専門職に対する動機づけの強化につながったと考えられ、カリキュラムマップ上の位置づけは適当であると思われる。以上のことから、内容的妥当性は適切であると考えられる。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価については、全項目とも平均して3.7~3.8ポイントと高いことから、授業の内容については適切であったと考える。また、図書館利用状況では「図書・雑誌の利用」30.2%、「学術データベース利用」15.1%、「インターネット利用」50%と学科全体の利用率を大きく上回っていた（学科利用率：5.4%、4.3%、16.7%）。このことから、学生が科目に対して高いモチベーションを維持していたということが推察されることから、授業の進め方に関しても適当であったと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の到達度自己評価の結果から、管理栄養士として必要な知識及び技能に関する理解は深まったものと推察される。また、昨年の授業評価の学生コメントにあった「時間外の準備が多い」という意見は、今年度は確認されなかった。これは「給食の生産と提供の前後準備」の重要性が授業を介して理解されたものであると考える。今後も、専門職として実務に携わるための指導を心掛けていくこととする。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 青木 るみ子 |

1. 基本情報

| 科目名    | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|--------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 総合演習 I | 3    | 前期         | 選択      | はい       | 108       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ○          | ○        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①3年後期・臨地実習 I の事前指導を実施するための科目である。履修動機としては「必修科目である」が96.0%を占め、「資格取得に必要」が30.3%を占める。管理栄養士・栄養士資格必修選択科目であるため、前述のような結果となった。</p> <p>②臨地実習に向けての、一般常識から特定給食施設に関する専門的知識の復習という広範な内容を盛り込んでいることから、オリエンテーションにて全体の計画を詳細に説明するようにしている。</p> <p>③特に、臨地実習に向けての種々の準備を行う時期に関しては、学生自身にスケジュール管理を徹底するように指導し、随時、一斉メールを利用することで周知を図っている。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
|   | やや達成された   | やや達成された    |            | やや達成された    | 達成された    |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>成績評価の平均値は79点であり、再試対象者は0名であった。授業評価の「到達度自己評価」を見ると、「判断力」「課題検討」「意欲」「技術習得」「コミュニケーション力」等に関しての自己評価は3.5～3.7であった。しかし、「学習量の評価」でも、73.6%の者が予習に、55.7%の者が復習に取り組んでいるが、昨年度より減少した。一方で、「図書館利用」に関しては、「図書、雑誌」38.7%、「データベース」29.2%、「インターネット」54.7%と昨年より利用者率の向上が見られた。以上のことから、自ら情報を収集し、学習しようとする姿勢が認められることからDP1、DP3、DP4は概ね達成できたと考える。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|   |   |
|---|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は、3年後期より開講されている臨地実習 I の準備科目である。特に臨地実習 I は、最初の学外実習となり、社会規範や礼儀作法から指導を行わなければならない。そのため、専門科目の位置付けてありながら、専門知識の指導のみに重点を置くことができないという矛盾を抱える。この点に関しては、昨年度の反省も踏まえ、専門分野担当の先生方との連携を通して、弱点の補強に努めた。臨地実習 I の事前指導科目としての位置づけでは、内容的妥当性は高いと思われるが、カリキュラムマップ上ではカリキュラム自体の改善が必要である。</p> |
|---|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」では、3.6~3.8ポイントと高い評価であった。特に「質問受け付け、回答の機会」については3.6→3.8ポイントと上昇しており、個別指導を徹底したことがこの評価につながったと考える。一方、実技指導の際に、指導の内容が学生によって異なるという指摘がコメントにあり、この点は反省する点である。しかし、指導内容が実技に関するものであるため、高い評価に値しない実技を行った者は、厳しい指導を行わざるを得ない。学外の実習に出す前の事前指導科目であることから、改善まで行う必要性を感じない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

科目は、学内で得た給食経営管理に関する知識と技術を学外実習（臨地実習Ⅰ）で実践可能とするための事前指導期間に位置付けられている。専門知識の振り返りに十分な時間を割けなかった昨年の反省を踏まえ、事前学習ノートの作成方式を変更した。その成果もあり、実習前の予習項目が明確になったと考える。一方で、社会規範に関しては、外部講師によるマナー講習を実施するなど、担当教員からも十分な指導が行えたと感じており、目標とする理想レベルに近い状態まで到達できたと考える。臨地実習Ⅰの後に続く、臨地実習Ⅱ・Ⅲで指導を継続していただきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 近江 雅代 |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 総合演習Ⅱ | 4    | 前期         | 選択      | いいえ      | 77        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目では、『応用栄養』および『臨床栄養』の栄養学分野において、最新情報を解説する。『臨床栄養』については、さまざまな症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、適切な栄養管理ができる実践的能力を養うことを目的としている。また、『応用栄養』では、食事摂取基準や身体活動基準、授乳・離乳支援ガイド等の厚生労働省が通知するガイドラインを活用し、各ライフステージに対応した適切な栄養管理が出来る力を養うことを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は『必須科目である：84.4%』『資格取得に必要である：61.0%』との理由である。しかしながら、授業準備性について、2015年度に比し、事前・事後学習の時間確保は確保されていたものの、十分とは言えず、次年度以降、資料配布ならびに確認テストの導入等、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |            |            |            |          |            |
|---|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | やや達成された  | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された  | やや達成された    |
| (2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。   | <p>本科目の本試験成績の平均値は68 (±10.0)点であり、若干、標準的レベル(70点以上)には至らず、また、標準偏差が大きかったことは、学生の修得状況における個人差が大きかったことと推察される。また、2015年度の成績(71 (±5.0)点)に比し、今年度の点数が低下したことは、本試験の難易度が上がったことが一因であるものと推察される。一方、理想的レベル(80点以上)は8名(10%程度)、標準的レベル(70点以上)は25名(34%程度)であり、約半数の学生が標準的レベル以上を達成できたものと思われる。また、学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたことと回答していたにもかかわらず、90%程度の学生が理想的レベルの知識と技術の修得、つまりは、実践的能力の獲得には至らなかったことは、次年度以降、確認テストの実施等といった何らかの知識確認のための強化の必要性が明らかとなった。</p> |            |            |            |          |            |
| <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> |  |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、試験成績においても、約半数の学生が標準的レベルを達成していたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。学生の成績もほぼ良好であり、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたことから、講義内容等についての課題はないものとする。今後、より一層の学生の理解を深めるためには、学生の事前事後学習を促すための対策が必要であると思われる。次年度以降、資料配布ならびに確認テストの導入、さらには、第1回講義開始前のオリエンテーション時における事前事後学習の推進、学習法の実例の提示等、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 田川 辰也 |

1. 基本情報

| 科目名       | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 管理栄養士演習 I | 4    | 前期         | 選択      | いいえ      | 77        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①4年生になって、国家試験の受験を目標に、公衆衛生学および病態医学の知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な公衆衛生学および病態医学知識および考え方を修得し、国家試験問題に対応できるように心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初にテストを行い、その後テストの解説を行い、学生の意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|--|--|------------|------------|------------|----------|------------|
|  |  | 達成された      | 達成された      | 達成された      |          |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>①本試験の成績の平均値は84(±8)であり、本試験にて、受験者全員が合格した。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは73%であった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は13点上昇した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「復習をした」という意見を多くいただいた。今後とも、わかりやすく、復習しやすい資料作りと授業内容に心がける。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性<br/>本科目は「専門応用科目」であり、管理栄養士必修科目である。すなわち管理栄養士国家試験を受験するには必須であり、学生の受講動機は国家試験受験資格を取得するためである。授業内容は国家試験に出題される内容であり、重要性は学生にしっかりと伝えている。定期試験にて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性<br/>成績評価から、知識判断、思考判断、態度に関する達成度が高かった。毎年国家試験の動向を見ながら、内容を修正しており、内容的には妥当であったと考ええる。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.5、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたと意欲をもつことができた」の平均が3.4と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするともに、学生がより学習意欲を持ち、国家試験に臨めるモチベーションを持てるように改善していきたいと考える。

学生の意見としては、「国家試験」に向けた、授業内容として評価されているようである。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門応用科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「管理栄養士演習Ⅵ」に引き継いでいく予定である。

授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業の最初にテストを行ったことで、学生が考察、検討する時間できた。今後は予習課題の提示などで改善を図りつつ、復習をやりやすくするなど、さらなる改善に努めたい。

以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、テストで考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを今後とも続けていきたい。

配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、後期の「管理栄養士演習Ⅵ」や来年度にむけて改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 南里 宏樹 |

1. 基本情報

| 科目名      | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 管理栄養士演習Ⅱ | 4    | 前期         | 選択      | いいえ      | 77        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①今回の受講動機の内訳は、「必修科目である」が78.8%、「資格取得に必要である」と答えたものが59.1%である。関連科目である演習Ⅰ、Ⅲについても、ほぼ同じ結果である。これらの科目は、卒業必修ではないが管理栄養士国家試験の受験資格に必須であるので、これらの数字は、前期終了時点で管理栄養士を目指して自覚的にこの講義を受講しているものが6割から8割にとどまっていることを意味する。なるだけ早い時期に将来の方針を決定し、そこに集中するように促す指導が必要と思われる。また、「関心のある内容である」と答えたものがわずか3.0%に留まっていたことは、解剖生理学、生化学、基礎栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でもいかに重要であるかを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していくことが重要だと思われる。</p> <p>②解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるが、これまでに学んだ内容を復習するためのオリジナル練習問題、管理栄養士国家試験の過去問などを題材に、ただ単に丸暗記するのではなく、からだのしくみを理解した上で、それを基に実際の栄養治療、栄養指導に応用できるようになることを目標に講義している。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|  |   |            |            |            |          |            |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された   | 達成された      | やや達成された    |            |          |            |
| (2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。   | <p>試験成績の平均点は、84.3点(±7.4)で、全員、本試験で合格した。90点以上 (A)が19名、80～89点 (B)が42名、70点～79点 (C)が12名で、70点以上が全体の95%を占めた。学生の授業評価アンケートにおいて、「到達度自己評価」の関連のある項目は (項目 (8)～項目 (10)以外) 平均値が3.3点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目 (2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」については3.4点と比較的高い評価であった。</p> <p>また、「学習量の評価」では、70%以上の学生が予習を、また、80%以上が学生が復習を複数回実施していることから、本科目に対して意欲的に取り組んでいると考えている。</p> |            |            |            |          |            |
| <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> |   |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性<br/>本科目は「専門教育科目・専門分野」であり、管理栄養士国家試験受験資格の取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績において学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容的妥当性<br/>成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準」、項目(2)の「学習の範囲・課題」および項目(3)の「説明の理解しやすさ」の平均値は、すべて3.2であった。解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学科学学生の苦手とする科目であるので、よりわかりやすい説明を心掛けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目・専門分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識を生きた知識として実践現場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら演習を進めていく必要がある。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 甲斐 達男 |

1. 基本情報

| 科目名      | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 管理栄養士演習Ⅲ | 4    | 前期         | 選択      | いいえ      | 77        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①本科目は、管理栄養士国家試験を受験する者を対象としたものであり、授業の内容は、国家試験合格を目指して、類縁科目を総合的に理解・把握できるよう設計されている。従って、受講動機が「必修科目である」70%、「資格取得に必要である」66%に偏っていることは当然として理解できる。</p> <p>②4名の教員によるオムニバス形式の授業であり、全体の様式を統一して受講生が戸惑わないよう配慮して学習の便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって極めて重要な科目であり、前期においては国家試験の過去問の理解に重点をおいて授業を実施している。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 | 全体を通して | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|---|--------|------------|------------|------------|----------|------------|
|   |        | 達成された      | 達成された      | 達成された      |          |            |

  

|   |  |
|---|--|
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>①国家試験対策という性質上、また、本科目で取り扱う分野は前期のうちに達成度を十分に挙げる必要のある基礎科目であるため、定期試験ではかなり難易度の高い出題を行った。最終成績の平均値は52点と低いレベルであったが、全国模試の成績と比較すればかなり満足できる結果であった。再試験対象者は46名であったが、該当者の全員が再試験に合格しており、しかも、出題内容を変えて難易度が高かったにもかかわらず平均得点が82点と高得点を示した。全員が標準レベルを遥かに凌ぐ高い達成度を示した。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中9項目について中央値を0.1～0.4ポイント超えていた。評価項目(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が中央値を僅かに下回った(0.2ポイント)が、これらの評価項目は、本授業が到達目的としているものとは異なっており、特に改善策を講じる必要はないものである。「授業の質」評価については、昨年は、(4)「学生が参加する機会が作られていた」で2.6ポイントと中央値を0.4ポイント下回り、教員間で差があると考えられて、今年度の課題として残ったが、今年度は、僅か0.1ポイント下回る程度まで改善が見られた。5項目中3項目が中央値を超えており(0.2)、1項目(疑問点い答える機会がある)について中央値を示し、全体に、かなりの改善が見られた。</p> |
|---|--|

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性<br/>本科目は国家試験受験対策の科目であり、全員が国家試験に合格するためには、全員が標準以上の成績評価を得なければならない。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性<br/>成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲関心」ともに達成度が高かったことと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①国家試験の結果が本科目のすべてであるが、全国模試や校内模試の結果を觀て、本授業の質的判斷と対策を練りながら授業を進めている。今後もその方針は変えない。  
②昨年に續いて学生から「質疑応答の時間が足りない」との指摘が僅かであるが挙がっており、引き続き、個々の教員ごとに各々何らかの策を講じて対処したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

一昨年までは結果の伴わない状態であったが、昨年よりさまざまな問題にそれぞれ工夫を施して対処した結果、受講生の成績評価が一気に向上し、国家試験の結果にも反映した。今年度も昨年と同様に実施し、良い結果が得られている。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 近江 雅代 |

1. 基本情報

| 科目名      | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 管理栄養士演習Ⅳ | 4    | 前期         | 選択      | いいえ      | 77        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の『栄養教育論』および『臨床栄養学』分野の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の選択科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は『資格取得に必要である』との理由が80%を占めている。にもかかわらず、授業準備性について、事前・事後学習の時間確保はやや確保されていたものの、十分とはいえず、学生自身の学習レベルの程度に対する気づきを促すために、次年度以降、確認テストの導入等、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
|   | やや達成された   | やや達成された    | やや達成された    |            |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目の本試験成績の平均値は63(±12.0)点であり、標準的レベル(70点以上)には至らず、また、標準偏差が大きかったことは、本試験の難易度が上がったことに加え、学生の修得状況における個人差が大きかったことが推察される。理想的レベル(80点以上)は8名(10%程度)、標準的レベル(70点以上)は19名(25%程度)であり、約30%の学生が標準的レベル以上を達成できたものと思われるが、半数以上の学生が達成できていない結果を真摯に受け止め、より一層の知識と技術の修得、つまりは、実践的能力の獲得のため、次年度以降、確認テストの実施等といった何らかの知識確認のための強化の必要性が明らかとなった。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結していることから、記録作成において、80%以上の学生が記録をしており、中には、授業の課題以外に国家試験問題に取り組んだとの自由記述も複数みられ、知識修得に対する学生の積極性が窺えた。しかしながら、より多くの学生が理想的レベルを達成できるためには、学生が自身の知識の修得状況を確認することにより、気づき、さらには、自発的学習へと繋げる必要性を強く感じた。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は、4年次前期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の選択科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、試験成績においても標準的レベルを超えていたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目における坂巻担当時の進め方につき、『説明がわかりにくい』との意見があったため、問題解説の際にはポイントを絞り、理解度が深まるよう、踏み込んだ解説を行い、授業を進めて行くように改善を図りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の選択科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の資格取得のための科目として位置づけられていることから、学生の成績もやや良好である。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、講義内容等についての問題はないものとする。今後、より一層の学生の理解を深めるためには、学生自身の学習レベルの程度に対する気づきを促すために、次年度以降、確認テストの実施等、知識確認のための強化を検討したいと考える。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 境田 靖子 |

1. 基本情報

| 科目名      | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 管理栄養士演習Ⅴ | 4    | 前期         | 選択      | いいえ      | 77        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|      | ○         | ○         | ×         | ×       | ×         |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>管理栄養士国家試験に向けての対策科目であり、公衆栄養学と給食経営管理論から成る。本来は、選択科目であり、卒業必修ではないため、4年時の学生にとっては「資格取得のために必要」な科目(80%)であるが、「必修科目である」と答えている者が46.2%おり、管理栄養士国家試験合格を「必修」ととらえていると推察され、学習準備性は十分に高いと考えられる。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して   | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|---|--|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|   | やや達成された  | やや達成された   | やや達成された   |           |         |           |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目の本試験の成績の平均値は、65.4(±12.7)点であり、再試験対象者が22名(28.6%)と昨年度(33.4%)と比較し減少したことから、学習目標は概ね達成されたと考えられる。</p> <p>学生に自己評価においても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」100%、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」97%、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」100%と非常に高い評価であり、「図書館の雑誌等の利用」4.4%→10.3%、「学術データベース等の利用」1.5%→4.4%と、若干であるが社会資源の利用にも改善が見られ、「職業選択の参考になった」も3.1ポイント→3.4ポイントと若干ではあるが上昇したことから、DP1とDP2についても「やや達成された」と評価できる。</p> |           |           |           |         |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①本科目は国家試験受験のための演習科目である一方で「選択科目」の位置づけとなっているため、学生によっては動機づけが難しい場合があるが、学生の自己評価では「知識の確認、修正ができた」としており、「職業選択の参考になった」3.4ポイント、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」3.2ポイントと、就職活動と並行した学期の授業として、カリキュラムマップ上の位置づけは適切と考えられる。</p> <p>②本試験の平均点は昨年から3点低下したが、合格率率は上昇したことから(66.6%→74.0%)、内容的妥当性は適切だったと考えられる。</p> <p>以上のことから、内容的妥当性は適切と考えられる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価において、「説明は理解しやすいものであった」3.6ポイントと高いことから、オムニバスの両教員に共通する「過去問を項目ごとにまとめ、取り組ませた」方法については適切と考えられる。  
しかし、学生の学習量については、昨年から悪化した（1回30分程度の準備0～1回の者53.7%→73%）し、選択科目である所以の予習・復習に対するモチベーションの低さが見られたため、授業内容についての振り返りを行う自主課題等の実施の検討が必要である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目における授業方法は、再試験対象者の減少など一定の成果を上げている。次年度以降も、現在の方法を基盤とし、各項目の分析をさらに詳細に行い、国家試験対策へ反映していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 中島 俊介 |

1. 基本情報

| 科目名 | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-----|------|------------|---------|----------|-----------|
| 心理学 | 1    | 前期         | 選択      | はい       | 96        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |   |            |            |            |          |            |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | 達成された   | 達成された      |            |            |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかという方向に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが、それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 中島 俊介 |

1. 基本情報

| 科目名  | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 行動科学 | 2    | 前期         | 選択      | はい       | 18        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 | 全体を通して | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|---|--------|------------|------------|------------|----------|------------|
|   |        | 達成された      | 達成された      |            |          |            |

  

|  |   |
|--|---|
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。</p> |
|--|---|

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかという一方向に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが、それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 八木 康夫 |

1. 基本情報

| 科目名  | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 健康科学 | 1    | 前期         | 選択      | はい       | 76        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の内容の把握させることに重点を置いた。受講の動機は「関心があって受講した」と答えた者が25%、「資格に必要」が8%で3割の学生が自らの意志で受講、「友人の受講」13.8%や「先輩・教員のすすめ」が8%が人から進められて受講、6割が「単位数の確保」と「GPA確保」が計70%おり大半の学生が消極的理由で受講していた。栄養学にこの科目の必要性は理解して当たり前と思われたが、実態はそうではない事が分かった。健康情報は近年メディアを通して日常的に断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含め人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるように授業計画を構成した。授業計画では小テストを単元毎に設け、予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。小テストは1週間以内に採点結果を各学生に示した。学生は小テストに出る問題を推測しながら予習をして授業に参加するようになり、授業で内容を理解しようという姿勢が見えるようになり、小テストのための復習をすることが当たり前のこととして定着していったように感じられた。1度目の小テストが終了した頃からクラス全体に予習復習が態度として表れたと感じられた。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 | 全体を通して | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|--|--------|------------|------------|------------|----------|------------|
|  |        | 達成された      | 達成された      | 達成された      |          |            |

  

|  |   |
|--|---|
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>最終的な成績の平均値は78(±8)点であり、再試対象は2名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは28名と、問題の難易度から言っても予想以上に多かった。目標達成できたと答えた総数は69人(73人中)で高値を示した。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は69人、「事象理解の視点を得た」と思う者は72名、「課題検討力」を得た者73名(100%)、「判断力を得た」71名、「学習意欲が得られた」73名(100%)、「必要技能を得た」69名、「表現力の向上」58名、「倫理規範獲得」67名、「職業選択の参考」68名と高い自己評価を持たすことができたと考ええる。今後、関心と受講数のギャップを埋めるよう、授業目標の達成度の程度を高めるような方法を取り入れた。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p> |
|--|---|

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性<br/>本科目は「総合人間科学科目」であるが、管理栄養士として必須の「運動」と「栄養」、「環境」の必要な基本的知識の一つであることは疑う余地がない。また、栄養学を目指すきっかけとしても、大きい位置を占めている。授業準備の欄で指摘したように、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>② DP、行動目標からみた内容的妥当性<br/>成績評価から思考判断に関する達成度が成績の割には低かったが、思考判断として何を問うているか学生に伝わったと思われる結果は、方法的妥当性はあると思われる。</p> <p>③ まとめ<br/>以上から、内容的妥当性は十分満たしていると思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、予習を全くしなかった者が36名(73名中)、復習をしなかった者が24名と予想より多かった。じっくり考えてもらう時間は十分にとることができたとは言えない。予習・復習の時間が要望よりかなり少なかったことは反省点であった。次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

管理栄養士に特に必要な専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成は概ね達成できた。授業過程を振り返ってみたと、事例を検討する時間をとることができたが、じっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで改善を図りたい。以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 八木 康夫 |

1. 基本情報

|         |      |            |         |          |           |
|---------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 科目名     | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
| 健康科学実習Ⅰ | 1    | 前期         | 必修      | はい       | 95        |

2. 観点・DP上の位置

|      |           |           |           |         |           |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|      | ○         | ○         | ×         | ×       | ×         |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量との関係が理解できるように努めた。⑤健康科学実習Ⅰでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |           |           |           |         |           |
|---|--|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。 | 全体を通して   | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|   | 達成された  | 達成された     | 達成された     |           |         |           |
| (2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  | <p>最終的な成績の平均値は84点であり、再試対象は1名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは71名と予想以上に多かった。目標達成できたと思えた総数は92人（93人中）で高値を示した。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は92人、「事象理解の視点を得た」と思う者は81名、「課題検討力」を得た者89名、「判断力を得た」85名、「学習意欲が得られた」82名、「必要技能を得た」83名、「表現力の向上」82名、「倫理規範獲得」88名、「職業選択の参考」70名と高い自己評価を持たすことができたと思える。欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%の者が達成したと自己評価している。意欲関心では97%に減じたが、種目やその歴史なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。</p> |           |           |           |         |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|   |  |
|---|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性<br/>本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、管理栄養士として運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的にあり一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると思える。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性<br/>成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、授業内容は妥当であったと考える。</p> |
|---|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |      |
|----|------|
| 学科 | 栄養学科 |
| 氏名 | 森田 洋 |

1. 基本情報

| 科目名     | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|---------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 生物と生命科学 | 1    | 前期         | 選択      | いいえ      | 92        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本講義を受講する学生の高校時代の生物選択は「生物基礎のみの履修」、「生物を履修」、「生物をほとんど習っていない学生」と様々であり、これらの履修状況の異なる学生に対して、高校生物の内容をカバーしながら、栄養学科に必要な生物学、生化学等の導入教育的な要素も取り入れながら、わかりやすい授業を心がけながら授業準備を行った。また毎回、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次回の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|--|--|------------|------------|------------|----------|------------|
|  | 達成された  | 達成された      |            |            |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>92名の受講生のうち、90点以上が56名、80点以上が29名と受講者の92.4%が「秀」あるいは「優」の成績であった。また授業アンケートでも好意的な意見が大勢を占め、教育目標としては大いに達成できたものと考えます。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本講義は高校で未履修部分の生物学の内容を網羅し、なおかつ栄養学科の専門科目への橋渡しを行う基礎科目としての位置づけとなる。受講動機は単位数を確保するというものや関心のある内容であるというものが多く、到達度自己評価は自分なりの目標を少しでも達成したと答えた受講者がほとんどであったことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価については概ね良好な結果であったが、学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。事前学習、事後学習の方法については授業の中で話したものの、浸透していないようで、次年度も引き続きこの点について学生に対して話をしていきたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

事前学習・事後学習に関しては課題があるものの、教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも基礎科目としての役割を十分に達成していると思われる。

|    |      |
|----|------|
| 学科 | 栄養学科 |
| 氏名 | 尾上 均 |

1. 基本情報

| 科目名     | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|---------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 生活の中の化学 | 1    | 前期         | 選択      | いいえ      | 95        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①本科目は選択科目である。今回の受講動機は、「単位数を確保する」49.4%、「教員に勧められた」35.3%のふたつが昨年同様上位に位置していたが、次いで「関心のある内容である」22.4%が3位であった(前年度は19.5%)。前年度の3位は「資格取得に必要な」23.0%(本年度14.1%)であったが、実際は資格取得の必須科目ではないのに勘違いしていた学生が昨年が多かったためと考えられる。例年、「化学」という科目名を聞いただけで拒否反応を示す学生が多いが、本年度の学生は、少なくとも取り組んでみようという意欲があるのかもしれない。講義では、化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を重点的に扱っている。特に生化学を学んでいく上で(私の講義を理解していく上で)必要な項目に焦点を当てて行っている。学生には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と働き、酸化還元について、最低限の定義、理論および法則を身につけることが、特に今後生化学を学んでいく上で重要であることを強調し、指導している。</p> <p>②講義は、スライド中心に勧めている。レジュメは、用いたスライドから特に重要と考えられるものだけを抜粋して配布した。すべてを配ると講義をおろそかにする学生が逆に増えると考えていることが理由である。しかし、講義中は、スライドの丸写しにだけ集中している学生が少なからず見られるのも事実であり、この点が今後の課題である。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|   |   |            |            |            |          |            |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1)教育目標は達成されましたか、達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | やや達成された   | やや達成された    | やや達成された    |            |          |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>最終成績の平均は74点、不合格者は15名であった。優(80点以上)以上の成績を修めた学生は33名、うち90点以上が12名であった。昨年度の成績が例年を大きく上回っていたのに対し、本年度は例年並みであった。一方、50点未満での不合格者が7名もいた。成績が高得点と低得点の両極端に分布している傾向にあった。授業の予習が0または1回の学生が69名、一方、授業の復習が0または1回の学生が67名であった。予習復習を事実上しない学生は比較的少ない方であるものの、6回以上行った学生が特に多いわけでもない。講義中に時折、学生に質問をすると、必ずしも正解でなくとも少なくとも自分の考えを述べる姿勢を見せる意欲的な学生が、昨年に引き続き多かった。22.4%の学生が受講動機に「関心のある内容である」と回答したことと相関があると考えられる。試験問題は、基礎的知識(化合物や代謝経路の定義等)と問う問題、基礎的な思考力をよとする問題を併せて9割以上、やや高度な思考力をよとする問題を若干の割合で出題した。多くの学生が知識の丸暗記にとどまらず、意欲的に論理的思考に取り組んだ結果が、優あるいは秀の成績を修めた学生が多かったことの最大の要因であると考えられる。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CPでの位置づけは、CP-1、選択科目である。合格率が高かったこと、平均点、高得点者の数から考え合わせて、内容的には妥当と考える。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。すべてにおいて目標達成度は高く、内容的には妥当と考える。</p> <p>全体としては、妥当な内容であったと考える。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に  
お示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し  
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、  
インターネット利用」学生の意見など

今年度は、比較的良好な目標達成度が得られたと考えている。学生の受講態度は、昨年同様に意欲をある程度感じさせるものであった。本科目が必須科目である生化学の前段階的な内容を含むため、本科目を受講することが生化学の単位を取得する上で有利であることを認識している学生が増えていることが要因のひとつである可能性がある。

本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」に鑑みると、生活や身の回りの事例等に則するという面が本年度もまだまだ不足していたと考えている。次年度以降は、タイトルに則した事例をもっと取り入れた内容にすることで、多くの学生にもっと親しみの持てる内容の講義にしていくつもりである。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度は、合格率、平均点とも従来を上回るものであった。少なくとも本年度は、達成度は向上しているものと考えられる。本年度の学生の受講態度は、高評価に値するものであった。このことは、例年よりも高い合格率に寄与した要因の1つと考えられる。次年度からは、6. に記したように講義の内容に改良を加え、学生の意欲を高いレベルに維持していくことが課題と考える。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 相良 かおる |

1. 基本情報

| 科目名     | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|---------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 現代社会と統計 | 1    | 前期         | 選択      | いいえ      | 89        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|      | ○         | ○         | ×         | ×       | ×         |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①四則演算、分数、百分率などの計算問題を相互に教え合いながら繰り返し解くようにし、数字や計算問題に慣れるように工夫している。</p> <p>②毎回確認テストを行い、学習状況を確認するようにした。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して   | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|--|--|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|  | 達成された  | 達成された     | 達成された     |           |         |           |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>履修生89名の成績の分布はA評価6.7%、B評価27.0%、C評価24.7%、D評価24.7%、E評価16.9%であった。自己評価の折に、行動目標についても「出来る」「何とか出来る」「出来ない」の3段階で評価して貰った結果、「出来ない」割合は、(1)6%、(2)10%、(3)0%、(4)4%であった。なお、「出来る」割合は、(1)8%、(2)7%、(3)37%、(4)20%であった。</p> <p>(1) 全数調査と標本調査について説明できる<br/>(2) 分布とその表現方法について説明できる<br/>(3) 度数分布表の作成ができる<br/>(4) 標準偏差について説明できる</p> |           |           |           |         |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>知識理解(DP1)、思考判断(DP2)については、一定の成績を収めていること、行動目標の自己評価の結果より、内容的に妥当であるとする。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年、到達目標(4)の標準偏差を説明出来る迄には至らなかったため、今回、平均値や中央値だけで評価・判断することがないよう、データのバラツキの幅の重要性について時間を割いて説明し、その効果はあったように思う。

今年、2年次の健康情報処理実習で用いるテキスト「わかる統計学 健康・栄養を学ぶために」を用いた所、「教科書も授業も難しすぎる」とのコメントがあった。

確かに、数学の苦手な学生が独習するには数式もあり難解に感じるテキストである。

独しやすい数式の少ないテキストに戻すべきか否かを検討中である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

シラバスに記載した内容においては達成したと考えている。

しかし毎年、学力の格差が広がってきており、本授業内容は、私が大学で学んだ初等統計学のレベルと比べ、学士力を保証する内容ではない。現在は、授業内容・レベルを学生に合わせているが、本学で学士力を保証することが重視された場合の改善方法については全く分からない。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 花沢 明俊 |

1. 基本情報

| 科目名     | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|---------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 情報リテラシー | 1    | 前期         | 選択      | はい       | 63        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れていない学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。15回の授業回数のうち、中間試験を含む第9回までは基礎技術の習得を行い、第10回以降はグループワークによる実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容に対する興味喚起に努めた。</p> <p>情報関連の知識・技術は、栄養学科の学生には必須と考えられるため、エクセルによる栄養計算やワードによる献立表の作成などを課題とし、在学中のレポートや発表だけでなく、栄養士としての実務に必須の技術であることを理解できるよう工夫した。</p> <p>また、後半のグループワークでは、食育グッズの企画・試作という課題を各グループで行った。創造性やコミュニケーション能力の育成といったグループワーク一般の目的に加え、栄養士や食に関わる職業の社会的意義や多様な活動についての情報収集を通じ、職業そのものおよび身につけておくべき情報技術について、理解を深め実感を得られるよう学習プロセスをデザインした。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|  |   |            |            |            |          |            |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | 達成された   | 達成された      |            |            |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。</p> <p>授業アンケートの到達度自己評価の項目のうち、本科目に特に関係する(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の結果は良好であった。</p> <p>学習量の評価については、テキストによる予習を推奨したが、授業アンケートの結果から実際の予習回数は低率であった。予習とリンクした課題を設ける等の改善策を検討したい。授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。実際、自由記述に「必要ない」という記述が多い。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。とりわけ、体系的な知識・技術を必要とする栄養学科では、さらに必要性が高い。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけでなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であるが、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は少なく、履修率と掛け合わせると学科の全学生の2割程度と推測される。授業オリエンテーションなどを通じた受講動機の改善を望む。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

図書館利用で、「インターネットのホームページを検索し、利用した」について、授業時間に全員が検索を行っているはずであるが、利用したと回答している割合が少なく、より明示的にネット資料の検索を指示したい。また、図書館を利用し、紙の文献にあたることも必要な情報収集能力と考えられるため、図書館の利用についても、明示的に指示したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。授業アンケートの受講動機において、将来への展望に欠ける回答が多いため、受講動機に対してより訴求性のあるシラバスに改善し、授業内容そのものも、より学習動機を理解しやすいものとした。できれば、受講後にどのように学習動機が変化したか、受講前と比較できるよう、アンケートを取って欲しい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 相良 かおる |

1. 基本情報

| 科目名      | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 情報科学演習 I | 1    | 前期         | 選択      | いいえ      | 91        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ○        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本授業では、操作技術を得る課題ではなく、情報を検索し、思考しまとめる課題を課している。また、サイバー事件に巻き込まれないための知識・技術を見につけることを重視している</p> <p>具体的には、タイピングの練習に日本国憲法の全文を打たせ、読めない用語にルビをふり、意味を調べ、印象に残った条文とその理由、意見・感想を最後に付加しレイアウトを整えて提出させている。ネット犯罪および著作権に関しては、警視庁のサイトで公開の対策ビデオ、および公益社団法人著作権情報センターのDVDを視聴し、Wordでレポートを作成している。また、4年間の学生生活で図書館を有効に活用できるように本学図書館司書による図書館検索・情報検索の授業を1コマお願いしている。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|  |  |            |            |            |          |            |
|--|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | 達成された  | 達成された      | 達成された      |            | 達成された    |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>授業評価の折に行った、行動目標について「出来る」「なんとか出来る」「出来ない」の3段階自己評価における「出来ない」の割合は、(1)から(4)まで全て1%であり、一方「出来た」では、(1) 41%、(2) 60%、(3) 24%、そして図書館の協力を得て図書&amp;情報検索の授業を行った結果、(4)は79%であった。</p> <p>(1) 2進数およびデータ量の単位と接頭辞を理解する。<br/>(2) ネットワークエチケットを守ることができる<br/>(3) インターネット事件の概要と予防方法を説明できる<br/>(4) 情報検索・文献検索ができる</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性については、成績評価および行動目標の自己評価の結果より、「知識・理解 (DP1)」、「思考・判断 (DP2)」、「態度 (DP4)」共に内容的妥当性に問題はないと考える。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

習熟度別クラスではないため、「授業の進みが早い、途中なのに進んでしまって困った」という意見と「説明が遅い」という意見があった。年々習熟度の格差が広がっているように思うが、相互に教え合える雰囲気を作り、教え合うことを奨励することで、友達作りにも繋がり、授業の進め方に大きな問題はないと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

大きな問題はないと考えている。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 三浦 元喜 |

1. 基本情報

|        |      |            |         |          |           |
|--------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 科目名    | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
| 情報の表現法 | 2    | 前期         | 選択      | はい       | 18        |

2. 観点・DP上の位置

|      |           |           |           |         |           |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|      | ○         | ×         | ×         | ×       | ×         |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方だけでなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。</p> <p>知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。</p> <p>技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。</p> <p>受講生の受講動機の6割が、「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「必修科目である」「単位数確保」が主要な動機である。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |           |           |           |         |           |
|---|--|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して   | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|   | やや達成された  | やや達成された   |           |           |         |           |
| (2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。  | <p>平均点は89.88点で、標準偏差は7.38であった。受講者のおよそ半数が90点以上であったことから、教育目標はやや達成されたといえる。</p> <p>単なるPowerpointやExcelの使い方にとどまらず、Webページの構成法やProcessingプログラミングなど、抽象度が高く、高度な内容を含んでいることから、到達度自己評価はすこし低めになっている。</p> |           |           |           |         |           |
| <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> |  |           |           |           |         |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。</p> <p>アニメーションやインタラクティブな表現については、学生にとっては面白く興味深い反面、自在に操るためには高度な知識が必要となることから、発展的な内容として扱うほうがよいとも感じている。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

アニメーションやインタラクティブな表現について、今年具体的な動作サンプルを提供し、それを選ぶことで、作品をつくりやすくする効果は提供できたと考えているが、今後は発展的内容として紹介するにとどめることも検討している。

ほかの講義の演習に時間がとられるようで、学生の自主的な予復習を期待しつつも、現実的には難しい現状があると理解した。  
学生の負担を他講義と共有できるのが望ましいが、困難な場合は締め切りを柔軟にするなどして、ほかの講義や演習負担との重複を緩和するようにしたい。

講義資料については、Web上で配布しているが、重要なものは印刷して配布するようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

\* 総括的評価 \*

新しい知識を提供することは成功しているが、職業・専門分野との関連や、意義づけについて、改善する必要がある。

\* 課題 \*

受講者のコンピュータスキルやリテラシーに、大きなばらつきがある。  
タイピングスピードが遅い学生は、操作が遅れがちになるため、説明においていけない。  
とくにスキルやリテラシーのひくい学生に対して、上記で述べた学習の動機付けを改善することが課題である。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 杉谷 修一 |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 現代と教育 | 2    | 前期         | 選択      | はい       | 3         |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|      | ○         | ×         | ×         | ×       | ×         |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>単位取得目的、興味を持っている者がともに3分の2程度であった。テーマが遊び文化に関連しているため、その半数強が内容にも興味を持っていた。教養科目であるため特定の資格取得に向けた知識技術の習得を目的としていないので、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変わってきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |           |           |           |         |           |
|---|--|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| <p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>   | 全体を通して   | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|   | 達成された  | 達成された     |           |           |         |           |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>平均点は79.7点であり、合格率は100%であった。基本的に知識理解が達成目標となっているが、平均点が70点程度を期待していたがそれを上回った。合格者のうち、秀に相当する者はおらず、優は2名であった(3名中)。</p> |           |           |           |         |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>受講動機の側面からいえば、ある程度興味を持って参加している。着座位置も常に前の方で受講態度も真面目であった。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

全体的に受講態度は良好であったが、時々居眠りなどが見られた。遊び理論の比較や歴史の細かな内容のパートで集中しにくかったように見える。理由のひとつは歴史的な事象に関する基礎的知識の不足である。江戸時代の遊びについて解説するために、江戸時代とはどのような時代であったのかということから始めなければならない、本来の授業内容を圧迫する原因となるだけでなく、学生の理解の焦点がぼやけてしまう結果にもつながっている。もうひとつの理由に、具体的イメージができていく学習内容についての理解が不十分であることが挙げられる。これらの問題への改善方策として以下の2点が考えられる。(1) 江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2) 画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

今後は秀の学生を増やすことが必要だと考える。そのためには学習内容への興味関心の深まりが不可欠であり、授業内容が面白いと感じることができるとのへと改善する必要がある。また、どのような形で知識の定着を確認するのかという点についても、授業を通じて学生に理解させ、アウトプットと結びつけたインプットができるよう指導したい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |      |
|----|------|
| 学科 | 栄養学科 |
| 氏名 | 十時 康 |

1. 基本情報

| 科目名  | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 英語 I | 1    | 前期         | 必修      | いいえ      | 95        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>受講理由は必修科目であるからというだけに過ぎず、初回のアンケートでは一様に英語に対する苦手意識を示した。教材がESP教材であったことから、自らの専門領域の知識と関連付けて英語学習をするように指導し、授業も栄養関連の単語を重点的に扱うなどした。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |   |            |            |            |          |            |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>   | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | やや達成された   | やや達成された    |            |            |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>期末試験の平均はおよそ70点で、それぐらいを取れるように設定したこちらの意図通りであった。70点に満たない受講生は4分の1程度いた。ただその中でも平均に大きく下回る者もあり、到達度を「やや」達成されたとした。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>学生による到達度自己評価はおおむね③④に集中しており、全体としては肯定的であったと捉えている。ESP教材であったとはいえ、栄養学科に必要なとされる専門知識に直接的にかかわるものではないため学生の自己評価もそのようになるのではないかと考える。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価も過半数が④⑤に回答をしており、おおむねよい評価であったと思う。ただ一クラスが50人弱という語学授業にとっては多すぎる受講者数であったため一人ひとりへの目配せが足りなかったかもしれない。

学習量については授業以外の学習時間はほとんど確保されていない。これは授業の進め方自体が、英文をその場で、初見で読む体験を重視したものであったことも原因かもしれない。語彙習得を重点的にいき、当該ユニットの語彙を授業中に覚えた上で、英文を一気に読み下し、分からないところを学生から集め翌週解説するというスタイルであった。これは予習復習に時間を取れない学生にも対応するために考えたものであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

全体的には到達目標を達成していると思うが、50人弱という大人数で語学授業をするときの個人個人への配慮をどうするべきかが今後の課題である。授業進度の複線化ということも視野に入れたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |             |
|----|-------------|
| 学科 | 栄養学科        |
| 氏名 | James Hicks |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 英会話 A | 1    | 前期         | 必修      | はい       | 24        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|      | ○         | ×         | ×         | ×       | ×         |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>We used the textbook "Four Corners 1" (Cambridge), which guides students through a series of practical exercises aimed at improving spoken English skills. Students engaged in listening practice, dialogue drills, information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building.</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して   | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|---|--|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|   | 達成された  | 達成された     |           |           |         |           |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>Students were assessed on 5 criteria (passive participation 30%, active participation 33%, homework 17%, and a final test 20%). The majority of students received a grade in the 85-95 range.</p> |           |           |           |         |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>Students were quite enthusiastic, positive, and willing to learn. This positive outlook contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. Opportunities to build skills (DP5) were provided throughout the course with most students taking advantage of the opportunity to learn.</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Goals for the next academic year include improving integration of supplementary materials into the current curriculum and increasing opportunities for kinesthetic learning (space permitting). Adding pages to the workbook to match the number of lessons in the term is highly recommended for this course.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Streamlining and improving the use of class workbooks to encourage note taking and completion of homework will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on class objectives.

リフレクションカード 2016年度前期

|    |                      |
|----|----------------------|
| 学科 | 栄養学科                 |
| 氏名 | L. Dennis Woolbright |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 英会話 A | 1    | 前期         | 必修      | いいえ      | 47        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>First semester of this Oral English course we used the textbook "Four Corners: Book 1", and the focus was on building students skills in English. Each unit of the textbook covered a different topic, and it took 2-3 weeks to complete the units. We worked on vocabulary building, and how to use that vocabulary effectively. We also worked on the four skills of reading, listening, writing, and speaking.</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|---|--|------------|------------|------------|----------|------------|
|   | 達成された  | 達成された      |            |            |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>This semester students were able to achieve a fairly high level of progress. Students improved in speaking simple sentences and by the end of the semester the sentences were noticeably better. Most students could use and respond to classroom English confidently by the end of the first semester. We also used music to improve their listening skills.</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>I believe the course was fully able to accomplish the goal of DP1-1 as the students enjoyed working with each other and have begun to make more progress in making themselves understood in English. They have enjoyed singing English songs and learning about English speaking cultures.</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Pair work was used this semester and in the future even more would be good. These students are well motivated and attendance was excellent. According to their comments they enjoyed the class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The students seemed very interested in English and are motivated to learn. At first they were hesitant to try to use their limited English but after gaining their trust, the students seemed to open up and be more willing to try. In the second semester we hope to make even more progress.

リフレクションカード 2016年度前期

|    |                      |
|----|----------------------|
| 学科 | 栄養学科                 |
| 氏名 | Malcolm Ross Swanson |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 英会話 A | 1    | 前期         | 必修      | いいえ      | 24        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>This was a class of non-English majors in their first year. Levels of the students varied widely from barely functional to reasonably competent (around TOEIC 400 probably). They were a hard working class of students, but because of the level, the textbook "Four Corners - Level 1" was chosen. This textbook is useful as recovery resource, helping students relearn much of what they have forgotten since leaving high school. Class times were spent mainly in the textbook, doing the grammar activities, vocabulary learning, listening exercises, and dialogue practice. We also spent some time doing presentation and skit writing activities to get them familiar with more authentic styles of English.</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
|  | やや達成された   | やや達成された    |            |            |          |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>This class has one very clear DP outcome goal - increasing knowledge and understanding. To a degree we achieved this goal. Assessment was completed using the following criteria: Classwork and participation (25%), Performance (40%), Attendance (15%), and Final Test (20%). The performance assessment was from two oral presentations, plus regular unit tests. Out of the 24 students, 3 achieved an "S" grade, 16 an "A" grade, 4 a "B" grade, and 1 a "C" grade. All students achieved passing grades in this class.</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>The goal of DP1 was partially achieved. Some students did very well, while others couldn't keep up with the material. There are two hurdles to overcome - one being that none of the students are English majors, so this is a required course that they often have little interest in (though they are a better class generally than in 2015). The second - related to the first - is that their English level is extremely low in many cases.</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Continuing this semester, I am giving the students a lot more scaffolding support. We are doing a lot of supplementary activities to help them with the target concepts. We are also doing a lot more vocabulary building with the hope that this will give them more tools to work with. These students are overloaded with homework and assignments from their other courses, so we need to be careful about what is given as self-study.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

For next year, we will try to introduce more core-building activities, especially in vocabulary.

リフレクションカード 2016年度前期

|    |      |
|----|------|
| 学科 | 栄養学科 |
| 氏名 | 金 銀英 |

1. 基本情報

| 科目名    | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|--------|------|------------|---------|----------|-----------|
| ハンゲル I | 1    | 前期         | 選択      | はい       | 20        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ×          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>○第二外国語として初級レベルの韓国語力をつけることを目標としている。開講後に行ったアンケートで（学校で実施する授業評価ではなく、別個に実施）「英語以外の言語に触れてみたい」や、「韓国旅行の際便利そう」などの積極性が見られる受講動機がある中「単位が欲しいから」との返答もなるなど、学生間の温度差があることが分かった。</p> <p>○受講姿勢に差がある50（看護学科、福祉学科との合同授業のため）に近い受講生全員が興味と持つように“楽しい”授業を目指した。学生が興味を持ちそうな韓国事情や毎年好評のK-popなどを授業に取り入れ最後の授業まで韓国語への興味が持続するように勤めた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |   |            |            |            |          |            |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | 達成された   | 達成された      |            |            |          |            |
| (2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。   | <p>成績平均が77.6と理想的レベルに近づけることができ、再試対象者もいなかった。</p> <p>授業評価における到達度自己評価でも多くの設問で満足度が高いという嬉しい結果となった。中でも「知識を新たに得ることができた」で設問に特に高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足とが一致する結果が得られた。また「自分なりの目標を達成した」でも高い満足度が見られたことは教員として嬉しい。</p> |            |            |            |          |            |
| <p>* 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> |   |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性<br/>試験の結果で見られるように第二外国語として、目標としていた成果を挙げられたので内容的に妥当性があると考えられる。</p> <p>DP<br/>授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。</p> <p>まとめ<br/>以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初級という授業の特徴上、学生間やり取りが難しいが、会話を増やすなどコミュニケーションの機会を増やすように努めた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。来年度も引き続きよい成果を挙げられるようにがんばりたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 田川 辰也 |

1. 基本情報

| 科目名       | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 疾病診断治療学 I | 2    | 前期         | 選択      | いいえ      | 113       |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ×          | ×        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①2年生になって、専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な基礎的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初と最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するスライドのレジュメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>⑤学生の予習、復習については、予習した学生は40%を下回ったが、復習した学生は40%を超えた。自由記述では、「授業はわかりやすかった。」という意見をいただいた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |            |            |            |          |            |
|---|--|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | 達成された  | 達成された      | 達成された      |            |          |            |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>①本試験の成績の平均値は79(±13)点であり、再試験後の不合格者は2名であった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは約60%であった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は2点上昇し、再試験受験による不合格者も2名から0名に減少と改善した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「授業はわかりやすかった。」など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|   |  |
|---|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性<br/>本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。学生も復習に力を入れており、定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性<br/>成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。課題された領域はすでに内容を修正しており、すべての領域において成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ<br/>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|---|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に  
お示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し  
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン  
ターネット利用」学生の意見など

①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.4、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.7と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をする  
とともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。  
②学生の意見としては、「授業はわかりやすかったが、範囲が広いのできつかった。」などの意見をいただいた。今後とも、範囲が広く、難しい内容  
であるが、さらにわかりやすい授業になるよう改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①専門基礎科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い  
科目である後期の「疾病診断治療学Ⅱ」に引き継いでいく予定である。  
②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最初と最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示など  
で改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。  
③以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、小テスト等で考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていき  
たい。  
④配布物（授業のスライドのレジюмеなど）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 新谷 恭明 |

1. 基本情報

|      |      |            |         |          |           |
|------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 科目名  | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
| 教職概論 | 2    | 前期         | 選択      | はい       | 15        |

2. 観点・DP上の位置

|      |            |            |            |          |            |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①教職概論は教員としての資質、職務及び採用試験対策の準備となる基礎的教職教養の知見を身に付けさせることを目標とした。</p> <p>②受講動機はほとんどが「必修」「資格取得に必要」ということになるので、講義の内容如何にかかわらず、受講姿勢は真面目であるが、興味関心が強いかどうかは怪しいので、授業への参加度を高める工夫をしてみた。</p> <p>③学生には別にノートを作らせ、自分のポートフォリオとして活用できるよう指示し、毎回の課題や持ち帰り課題などを活用することでノートを充実させるように仕組んだ。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|  |  |            |            |            |           |            |
|--|--|------------|------------|------------|-----------|------------|
| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して   | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4)  | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された  | やや達成された    | どちらともいえない  | どちらともいえない  | どちらともいえない | どちらともいえない  |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>最終的な成績の平均値は81.1であり、この科目の全体の平均値81.9を微妙に下まわる。再試験対象はいなかった。80点以上が期待値とすれば、80点未満の学生は15名中6名おり、決して芳しいものではなかった。</p> <p>学生の到達度自己評価は3.1～3.4であり、教育の質評価も3.2～3.3であった。</p> |            |            |            |           |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>教職課程の科目であるから資格取得のため、必修だからという受講動機であり、講義の内容にもとより関心を持っているわけではない。しかし、免許状取得に必要なものであるから妥当であろう。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

説明の理解について重要なポイントがわかりにくいという指摘があった。しかし、これについては「かなりわかる」というところにつけた学生もおり、個人差ではあると思うが、なるべくすべての学生がわかるような内容のものに改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

教職課程の科目であり、2年生ということもあってまだ免許の実感は少ないのだろうと思うが、他学科に比して意欲に乏しいので、意欲を喚起する工夫は行いたい。具体的にはシラバスの見直し、配付資料の見直し、となろうか。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 中島 俊介 |

1. 基本情報

| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 教育心理学 | 2    | 前期         | 選択      | いいえ      | 15        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
|   | 達成された   | 達成された      | やや達成された    | 達成された      | 達成された    |            |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかという方向に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに答える学生がいないことにも起因しているが、それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 近藤 憲一郎 |

1. 基本情報

|       |      |            |         |          |           |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
| 特別活動論 | 3    | 前期         | 選択      | はい       | 14        |

2. 観点・DP上の位置

|      |            |            |            |          |            |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>① 受講動機として、77%の受講者が「栄養教諭免許の取得のため」と回答し、選択科目にもかかわらず進路選択の上から「必修科目である」と受け止めている受講者が46%（重複回答あり）、さらに「単位数を確保する」8%（重複回答あり）という状況であることを踏まえ、できるだけ栄養教諭を想定した事例等の準備を行うなど、受講への興味関心を醸成しようと考え、資料や事例等の選択・取扱いにできるだけ工夫して、受講への興味関心をたかめるよう努めた。</p> <p>② 昨年度と同様、授業の最初に小、中、高等学校時代の特別活動の思い出を記述する時間を確保するとともに、互いの思い出を交流し合うことを通じて、特別活動への様々な思い出に触れさせ、特別活動への興味関心を深めるようにして受講動機の強化を図った。</p> <p>③ 10回の講義後に、これまでの講義から誘発された問題意識の中からテーマ設定したレポートを提出するよう課題を与えて、これまでの学習状況を振り返るようにした。また、その際、レポートの記述要領の参考となるレポート事例資料を配布し、課題追及への興味関心とレポートの質的向上を醸成した。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|  |           |            |            |            |           |            |
|--|-----------|------------|------------|------------|-----------|------------|
| (1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。   | 全体を通して    | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4)  | 技能表現 (DP5) |
|  | どちらともいえない | どちらともいえない  | どちらともいえない  | どちらともいえない  | どちらともいえない | どちらともいえない  |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> |           |            |            |            |           |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は栄養教諭免許の取得には必修の内容である。そのため、免許取得を前提として受講しているものとして受講生の希望にさらに応えるよう工夫していくこととし、受講生も結果として満足する成績を収めていることから、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

受講者による到達度自己評価の知識・理解、思考判断、関心意欲、態度、技能表現の観点及び授業の質的評価においては、いずれも学科別集計に比較して数%程度の低い値を示し、中央値はすべて3といった状況である。このような状況を改善するため、資料や事例等の選択・取扱い等に工夫するようにしたい。一方、学習量の評価及び図書館利用は学科別集計より高い数値を示しており、とりわけ、図書館利用の観点(1)、(2)、(3)においては学科別集計の1.3倍から2.5倍の高い数値をしめしていることから、今後とも、これまでと同様の働きかけを続けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

特別活動の特質、目標、内容等についての基礎的知識の形成については何とか達成することができたが、具体的資料や指導の実際の事例の提供について課題が生じていると思われる。すなわち、中等教育の学級担任を目指す受講生と初等、中等教育の養護教諭、栄養教諭を目指す受講生のいずれにも適した指導の実際等の資料や具体例を授業時間内でどのように提供するかという課題である。学科横断的科目としての必然的課題であるが、特別活動の指導のあり方についてできるだけ内容調整などを図りながら、受講への興味・関心を高めるよう改善工夫を図っていきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 新谷 恭明 |

1. 基本情報

|       |      |            |         |          |           |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
| 教育方法論 | 3    | 前期         | 選択      | はい       | 14        |

2. 観点・DP上の位置

|      |            |            |            |          |            |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ○          |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>①教育方法論は担当する教職課程の最後の講義（今年着任なので最初で最後）になるので、教員としての実践力の基礎及び採用試験対策の準備となる基礎的教職教養の知見を身に付けさせることを目標とした。</p> <p>②受講動機はほとんどが「必修」「資格取得に必要」ということになるので、講義の内容如何にかかわらず、受講姿勢は真面目であるが、興味関心が強いかどうかは怪しいので、参加度を高める工夫を試みた。</p> <p>③途中、中間テストを入れ、かつ問題を協力して考えるという参加型（アクティブ・ラーニング）の手法を取り入れてみた。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

|  |   |            |            |            |          |            |
|--|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|  | やや達成された   | 達成された      | やや達成された    | どちらともいえない  | やや達成された  | やや達成された    |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>最終的な成績の平均値は83.8であり、この科目の全体の平均値87.6より4ポイント弱低かった。また最低点となった75点は5名いたが、そのうち4名は栄養学科であった。なお、再試験対象者はいなかった。とは言え、多くの学生は期待した水準に達したと言うことはできる。しかし、他学科に比して成績はよくなかったと言える。</p> <p>学生の到達度自己評価は3.3前後であり、授業の質評価は3.2～3.3であった。資格取得が目的のため、義務感で受講していることが背景にあるのだろう。その意味では受講生の興味・関心を引き出す工夫が必要なのだろう。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>教職科目のために学生は自分の素朴な興味・関心より資格取得のために取らなくてはならない科目として受講している。また、教職教養なので、栄養教諭として想定する業務とは少し距離のある内容が多いのはやむを得ない。また、自由記述の意見は全くなく、ある意味教職教養の学習には興味そのものが薄いのかも。しかし、実際の業務には少なからずかかわってくるので、イメージを喚起する工夫が必要であろうが、教職教養の内容としては妥当であると言える。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価で、「説明が理解しやすい」に関して1名、「ややそうでない」というのがあった。理解を深めるための工夫が必要なのだろうが、学生とのコミュニケーションを増やす方向で改善をしたい。また、図書館利用等の項目で「インターネットの利用」が13名中5名ほどいたが、これは授業中にもしばしば促したことであり、実際教育方法論に関する素材はインターネット上に多いので、これらを活用する方向を促すようにしてみた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

教職課程の科目であるため、学科の専門性とは少し距離がある。栄養教諭の職業イメージが教職科目の内容と相容れないのであろう。それが成績に関連してきていると思われる。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |        |
|----|--------|
| 学科 | 栄養学科   |
| 氏名 | 手嶋 英津子 |

1. 基本情報

| 科目名       | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
|-----------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 学校栄養指導論 I | 3    | 前期         | 選択      | いいえ      | 14        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|------|------------|------------|------------|----------|------------|
|      | ○          | ○          | ○          | ○        | ×          |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は、栄養教諭の使命と役割を理解し、児童生徒の食に関する実態を把握した上で、食に関する課題を解決するための意識・態度・姿勢を持つことを目的としている。さらに栄養教諭として学校教育に対する認識を深め、どのような食の指導を行うことが必要であるか考える力を身に付けることに重点をおいている。本科目の受講生は、栄養教諭を目指す学生であり、「資格取得に必要である」ことが受講理由である。本科目を受講するにあたり、栄養教諭に必要な資質として主体的に取り組む力が必要であるため、授業以外でも自ら学ぶ姿勢を身に付けるよう促していく必要がある。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |   |            |            |            |          |            |
|---|---|------------|------------|------------|----------|------------|
| <p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>   | 全体を通して  | 知識理解 (DP1) | 思考判断 (DP2) | 意欲関心 (DP3) | 態度 (DP4) | 技能表現 (DP5) |
|   | やや達成された   | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された    | やや達成された  | やや達成された    |
| <p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目の受講生は14名であり、授業アンケート等で客観的に評価することは困難であるかもしれないが、最終成績が平均で80点であり、また、課題の取り組み状況より上記の評価とした。</p> |            |            |            |          |            |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |   |
|--|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>本科目は、教職に関する科目の中に位置づけられており、栄養教諭の使命と役割、職務について理解し、栄養教諭としての意識・態度・姿勢を持つために重要な科目である。到達度自己評価において、「職業選択の参考になった」の項目では平均点が3.9点であり、栄養教諭の職務等が理解できたのではないかと考えられる。その他の項目に関しても、全員がそうだと思うと回答しており、内容的妥当性はあると評価できる。</p> |
|--|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目は、栄養教諭の免許取得のために必要な科目であり、栄養教諭としての基礎的知識や資質および態度を修得することが重要である。しかし、「学習量の評価」では、予習復習の時間は半数が0回であり、授業以外での学習が十分でないといえる。栄養学科3年生は臨地実習前で他教科の課題が多い時期ではあるが、本科目の目的を達成するためには、授業時間以外での学習が必要である。次年度は、課題や小テストを実施するなどの改善を行い、知識の定着や、主体的に学ぶ力を身に付けていけるよう工夫していきたい。  
昨年度は少人数のためグループ学習ができなかったが、今年度はグループでの活動を多く取り入れ、ディスカッションを通して学びが深められるように工夫した。また、各自の考えを発表する機会をできる限り与え、コミュニケーション力や表現力の向上に努めた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、栄養教諭免許を取得するために必要な科目であり、栄養教諭の入り口にあたる科目である。受講生は14名であり、授業評価からの客観的な判断はできないかもしれないが、最終成績や提出課題より栄養教諭として必要な基礎的知識の形成は概ね達成できたと考えられる。しかし、栄養教諭としての態度や資質を身に付けるためには、主体的な学習を行うように促す必要があり、次年度からは課題の提示等、工夫・改善を行いたい。また、科目の特性上受講者数が少なく、授業評価アンケートでは客観的な意見を捉えにくいいため、適宜学生の意見を聞きながら改善に努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2016年度前期

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 杉谷 修一 |

1. 基本情報

| 科目名        | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断的科目か | 登録された受講者数 |
|------------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 道徳教育の理論と実践 | 2    | 前期         | 選択      | はい       | 15        |

2. 観点・DP上の位置

| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
|      | ○         | ○         | ×         | ○       | ×         |

3. 授業準備について

|   |   |
|---|---|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道徳教育の実施状況から考えて、非常に意識にくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道徳教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。</p> |
|---|---|

4. 学生の目標達成状況について

| (1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。  | 全体を通して  | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4)   | 技能表現(DP5) |
|--|---|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|  | やや達成された   | やや達成された   | どちらともいえない |           | どちらともいえない |           |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>平均点は64.3点、合格率は66.7%であった。平均点を70点程度と予想しており、やや不足している結果となった。秀はおらず、優は6名であった(15名中)。平均点からすると学力上位層はある程度存在する。合格する者と不合格の者の間で二極化する傾向があると考えられる。合格者としてはある程度目標が達成できたと考えられるが、不合格者は不十分のため、全体としての達成度評価は難しい。両者を個別にとらえて授業改善を行う必要があるだろう。</p> |           |           |           |           |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|  |  |
|--|--|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道徳教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。</p> |
|--|--|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。  
(3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。ただ、結果からみるとそれができた学生と、漠然と指導案を読んでいるだけの学生にはっきり分かれていたように思う。宿題だけでなく、授業中の作業として自分自身の指導案作りをさせるなど、演習的なアプローチが必要だと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

上位層については秀の学生を増やすこと、下位層については全体的な底上げが今後の課題である。達成状況からすると、下位層は基本的な部分ですら問題を残している。当然自分なりの工夫という部分でも弱い。学生自身の興味関心という点で問題があるだけでなく、具体的にどのような形で授業を構想すればよいのかという点を理解してもらえるような工夫を行いたい。

|    |       |
|----|-------|
| 学科 | 栄養学科  |
| 氏名 | 野原 三郎 |

1. 基本情報

|       |      |            |         |          |           |
|-------|------|------------|---------|----------|-----------|
| 科目名   | 配当学年 | 前期・後期・通年の別 | 必修・選択の別 | 学科横断の科目か | 登録された受講者数 |
| 生徒指導論 | 3    | 前期         | 選択      | はい       | 14        |

2. 観点・DP上の位置

|      |           |           |           |         |           |
|------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| 該当に○ | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4) | 技能表現(DP5) |
|      | ○         | ○         | ○         | ○       | ○         |

3. 授業準備について

|   |  |
|---|--|
| <p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、自由記述の意見など</p> | <p>① 「学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、受講動機として「必須教科である」30.7%「資格に必要」92.3%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。</p> <p>② 授業の実施にあたっては、従来の生徒指導の内容とともに、子どもや学校にかかわる災害や事件事故をどのように予見し回避すべきかについて考察する内容とし、以下の3点に重点を置いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の生徒指導に関する事象や関係法規を取り上げ、学校・教師の社会的使命の自覚とコンプライアンス意識の醸成を図る。</li> <li>・子ども達の社会性や対人関係能力を育むガイダンスカリキュラムについて演習を通して学ぶ。</li> <li>・危機管理能力と、防犯・防災教育についての実践的指導力を育成する。</li> </ul> <p>③ 授業の導入にあたっては、教育問題や児童生徒に関する事件事故などに関する新聞記事を用い、学校現場に直結した授業となるよう心がけた。さらに教育課題をどう捉え、解決する方策について講義・演習を行った。演習としてSST、犯罪やいじめ防止のロールプレイングなど、実践的な内容になるよう配慮した。</p> <p>④ 受講学生は全員が3年生であり、実社会への接続期となり、社会や学校教育に関する意識や関心を持たせるために、毎週の課題として一週間の新聞記事から教育問題に関する記事についての感想文論作文を提出させ添削を行った。</p> |
|---|--|

4. 学生の目標達成状況について

|   |  |           |           |           |          |           |
|---|--|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| <p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>  | 全体を通して   | 知識理解(DP1) | 思考判断(DP2) | 意欲関心(DP3) | 態度(DP4)  | 技能表現(DP5) |
|   | やや達成されなかった   | やや達成された   | やや達成された   | 達成されなかった  | 達成されなかった | どちらともいえない |
| <p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p> | <p>意欲関心に関する&lt;意欲&gt;では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で10名、2名、10名の順であるのに対し、否定的回答が2名15.3%となっており、全ての項目の中で最も低い評価となっている。同様に、文章の回答の中にも「栄養教諭がいることも忘れないで」と言った意見があった。生徒指導に関する授業が中心であり、おそらく授業内容が栄養科とあまり関係性がないと感じ履修意欲の低下につながったと思われる。本教科を受講するにあたっては年度当初に、学校では栄養教諭は給食に関する業務にとどまらず、健康・栄養指導で学級担任と協力して授業や研修会の講師としての役割が求められることや、生徒指導において「チーム学校」の一員として、給食や栄養についての指導の中心的役割を担う必要があることを理解させることが不十分であった。</p> <p>以上の理由から否定的回答は少数ではあるが、教科の目標が達成されたとは言えない。</p> |           |           |           |          |           |

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

|   |   |
|---|---|
| <p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;<br/>「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p> | <p>CPカリキュラムマップ上における本科目の位置づけからみての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「必須教科である」29.6%「資格に必要」92.6%となっており、栄養教諭免許の取得に向けた受講であり、位置づけ動機づけの一つとしている。こうした学生の志向に応えるためにも、近年の教育の動向を踏まえた内容を工夫し、学生も一定の成果を収めており、内容の妥当性はあるものと思われる。特に、児童・生徒の問題行動への対応の在り方についての基本的理解や、SST等の演習は、教育実習を充実させる上でも本教科の内容の妥当性があると考えられる。</p> <p>近年、アナフィラキシーショックによる児童の死亡事故など、学校内外において予想を超えた様々な問題が発生し、その都度学校の危機管理意識の欠如が厳しく指摘されている。これらは従来型の問題行動に比べより対応が難しく、学校・教師に大きな責任が課せられる。これらの児童生徒に関する災害や事件事故への的確に対応するには、① 学校保健安全法をはじめ安全に関する様々な法規についての理解とコンプライアンス ② リスクマネジメント、クライシスマネジメントの在り方 ③ 体験を通じた防犯・防災教育の指導方法、の三点が必要であると考えられ、本教科でも出来る限り取り組んでいる。このことは教師をめざす学生にとって必須であり、本教科の内容の妥当性があると考えられる。</p> |
|---|---|

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

① 学生の担当教員への意見は、「論作文をもっと頑張りたいと思った」といった肯定的意見があった。②「授業の質の評価」については「説明は理解しやすいものであった」について「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「0名,2名,10名」であるが、否定的回答は「2名」14.2%が「すこし」と回答しており、平均値が3.0と全ての項目の中で最も評価が低い値となっている。学生の意見でも「説明をもっとゆっくり」といった授業の進め方についての意見があった。その要因として、シラバスの消化にこだわるあまり、学生が授業内容を十分に咀嚼できないままに授業を進めたことや、授業内容が栄養科とあまり関連性がないと感じていると推察される。  
③「学習量の評価」についても「授業の準備」について8名57%が「していない」と回答しており、〈復習〉についても似たような結果である。さらに〈課題以外の学習〉に至っては「0回」が14名100%となっている。学生の意見も「他の教科を優先してしまった」とあり、本教科の優先順位が極めて低いことが分かる。  
以上のことから、○栄養教諭は教科や学活などで食や栄養に関する授業を行うことが求められており、そのための機能としての生徒指導が不可欠であることを理解させること ○シラバスを精選し時間的余裕をもって授業を進めること ○講義中心から脱却し学生中心の能動的な授業形態に変えていくことなどが必要である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

以下に本年度の課題解決に向けた対応について述べる。

- ① 栄養教諭が児童・生徒の健全育成に果たす役割や関係性について、年度当初に十分に理解させる。
- ② さらに、知識の定着を図り家庭学習へ繋いで行くために、授業の終わりに毎回小テストを実施する。
- ③ 本年度、取り組みはしたが十分な時間が確保できなかったPBLやブレインストーミングとKJ法、開発的生徒指導の例としての構成的グループエンカウンターなど、実践的な活動を充実させる。